

富山経済同友会

会報

2025. 5月
No. 324



スケッチオーダーショー決勝大会（3月16日）

CONTENTS

- 【特集】2025年度定時総会 2
- 【提言発表】人財活躍委員会.....13
- 【提言発表】教育問題委員会.....14
- 【提言発表】地域創生委員会.....15
- 第37回全国経済同友会セミナー（広島）.....16
- 3月会員定例会17
- 【講演録】3月会員定例会：山口 明夫 氏17
- 第2回同友会経営道場（企業経営委員会）.....22
- スケッチオーダーショー Day 7-923
- 第8回委員長連絡会議25
- 第9回教育問題委員会25
- 第7回アスリート支援小委員会26
- トピックス（アスリート人材を希望される会員企業の皆様へ）...26
- 第11回文化スポーツ委員会27
- 第1回交流委員会27
- トピックス（第3回県庁周辺エリアマネジメント懇話会）...28
- トピックス（市議会・町村議会議長会からの要請）...28
- リレーエッセイ⑫（須田 直樹 氏）29
- 活動報告30
- 慶事のお知らせ31
- 会員の入退会32
- 今後の予定37
- 事務局からのお知らせ37
- わが青春の1枚（柳川 三千代 氏）.....38

2025年度定時総会

— 会員約190名が出席し盛大に開催！ —

4月24日(木)、2025年度定時総会がANAクラウンプラザホテル富山で開催され、約190名が出席した。



冒頭、牧田和樹代表幹事が開会挨拶を行い、麦野英順代表幹事が議長を務め、2024年度事業報告がなされたのち、決議事項として①2024年度決算案、②2025年度事業計画案、③2025年度予算案、④役員の選任の4件について審議が行われた。



牧田代表幹事

2024年度事業報告では桶屋泰三副代表幹事が概要報告を行い、各委員長が活動状況を説明した。また、板谷聡会計監事が2024年度決算の監査報告を、大橋聡司副代表幹事が2025年度事業計画の説明をそれぞれ行い、いずれも原案どおり承認された。

2025年度事業計画案では、9つの委員会の設置と、重要政策課題への対応を目的とした代表幹事イニシアティブ委員会を必要に応じて機動的に設置することとして、「連携」・「創造」・「行動」をキーワードに行動していくことが決定された。

役員の選任では、石倉央氏が常任幹事に選任された。そして、常任幹事の池田安隆氏の特別幹事への就任ならびに10名の新幹事の選任も承認された。

4件の審議終了後、新任役員と新任委員長の挨拶、退任役員の挨拶がなされ、事務局員の交代に伴う挨拶があった。

代に伴う挨拶があった。

総会終了後、新田八朗富山県知事、藤井裕久富山県市長会会長、山室芳剛商工労働部長を来賓にお迎えして懇親会を開催した。

麦野代表幹事の開会の挨拶に続いて、新田富山県知事より「同友会の皆様には県政に多大な協力をいただき感謝申し上げます。トランプ関税への対応では関係機関と情報共有を進め迅速に対応していく。また、今年度より富山県インド経済デスクを設置するので、活用して欲しい」と来賓挨拶があった後、本年1月以降入会された新会員を紹介した。その後、藤井富山県市長会会長より「地元根差した企業から、世界を



麦野代表幹事

新田知事

舞台に活躍する企業まで、様々な方々と交流し、世界を見渡すことができる同友会はかけがえのない財産。ともに富山の未来を築いてまいりたい」と挨拶があり、乾杯の発声を行った。



藤井市長会会長

最後に松田光司副代表幹事が「真剣な中にも楽しく、新年度も一丸となり富山の経済発展のため邁進してまいりたい」と閉会の挨拶を行い、盛会のうちに終了した。



松田副代表幹事

原理原則に立ち返り取り組もう

—定時総会・開会挨拶— 代表幹事 牧 田 和 樹

皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、定時総会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、特別顧問の皆様にもご臨席賜り、心より感謝申し上げます。

本日午前中に、「富山県米国関税情報連携会議」に出席してまいりました。現時点では今後の展開が不透明であり、各団体・各機関とも「何もわからない」というのが率直な意見でしたので、いずれ何らかの影響が出ることは間違いないだろう、という認識で一致しておりました。

私見ではありますが、今回の「相互関税」は直接的に貿易収支へ影響を与えるものではありません。本来、関税とは輸出入に対する税収確保を目的とするものですが、同程度の関税をお互いにかかけ合うのではその意味がなく、ねらいは市場における高価格への購買マインド減退による、間接的な貿易収支の是正にあると思っております。

このような状況の中で、わが国の輸出企業が取るべき道は明確であり、海外市場が本当に欲しいものを作っていくことです。かつて昭和30

～40年代、わが国では為替や関税の影響があったにもかかわらず、外車は多くの人の憧れとなり、高い金額を払ってでも購入しました。ですから、同様に海外市場が欲しくなる価値のあるものを提供していけば、たとえ価格が高くとも、市場の購買マインドは維持できるだろうと思えます。

要は、恐れることなく原理原則に立ち返り、「何のためにこのプロダクトがあるのか」を考え、愚直に追求していけば、必ず道は拓けると信じています。

経済同友会も同じであります。会員の皆さんがこのように集まり、原理原則を大切にしながら、地域経済の発展と、各自の資質向上に向けて愚直に取り組んでいくこと、これこそがこの会の大切な目的であると考えております。

本日は定時総会でありますので、どうか慎重なご審議をお願い申し上げ、開会のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

地域と未来のために取り組んでいこう

—懇親会・開会挨拶— 代表幹事 麦 野 英 順

懇親会にも200名近い皆様にご参加をいただき、心より御礼申し上げます。新田富山県知事、藤井富山県市長会会長にもご臨席賜り、誠にありがとうございます。藤井市長には先日のご当選、心よりお祝い申し上げます。富山経済同友会一同、応援しておりますので、大いにご活躍いただきたいと思います。

さて、世界情勢はウクライナ、中東紛争に加え、「トランプ劇場」とも言うべき混乱が起きております。突然の関税政策などの発表により、国際的なサプライチェーンや安全保障体制への影響が懸念されますが、今は冷静に状況を見極めるべきと考えます。一部のエコノミストからは、リーマンショックやコロナショック時のようなりセッションへの懸念も聞かれますが、私ども経営者は「飛耳長目」、耳を広く傾け、足を固めながら着実に進めていくことが重要であると考えております。

また、先日開幕した大阪・関西万博ですが、現地に行かれた方の声を聞くと、非常に見どころや驚きが多くあるとのこと。これからは暑い中、混雑も予想されますが、未来や国際社

会を身近に感じる貴重な機会でありぜひ多くの方に訪れていただきたいと思います。

さらに、先週広島で開催された全国経済同友会セミナーでは「50年後も輝き続ける『まち』であるために」をテーマに、人づくり、街づくり、地域づくりをテーマに議論が交わされ全国から約1,300名、当会からも22名が参加しました。その中で、広島県の湯崎知事による来賓挨拶での「女性活躍社会ではなく、男性活躍社会を目指す」という言葉は印象的でした。女性の社会進出が進んでいる中、今後は男性が家事・育児・地域活動により積極的に取り組むべきとの発言に感銘を受けました。

先程の総会では、2025年度の事業計画も承認されました。人口減少と人手不足という厳しい状況下ではありますが、ふるさと富山と未来の子供達のために、地域創生・活性化に全力で取り組み、提言そして実行に移していかなければなりません。皆様の積極的なご参加をお願い申し上げ、開会の挨拶といたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

委員会活動を活発に

副代表幹事 桶屋 泰三

2024年度活動概要をご説明します。

当会活動の根幹をなす委員会活動が活発に展開され、3委員会が提言を公表しました。

人財活躍委員会は、「様々な人財が富山で輝ける社会を目指して」と題し、採用活動への行政・企業・経済団体・教育機関の連携強化と、多様な人材が能力を最大限に発揮できる企業環境づくりを提言しました。

教育問題委員会は、「教師と教育現場のチャレンジ支援のために」と題し、「教師力向上」のために、教師が学校関係者以外と交流できる機会の創出や、中高一貫校・国際バカロレア認定校の設立について提言しました。

地域創生委員会は、「つながる富山、共創の未来～エリアリノベーションで描く新たな100年～」と題し、神通川旧河道エリアを若者で賑わう共創の空間とすべく、官官／産学官民が連携した能動的な組織立ち上げを提言しました。

次に、各委員会のSDGsの活動状況を紹介します。「持続可能な企業経営」をテーマに、企業経営委員会は、諸課題への対応とあるべき経営者の姿に関して考える、県内企業訪問、経営道場、拡大委員会を開催しました。



「持続可能な人づくり」をテーマに、人財活躍委員会は、外国人材活用の先進事例視察、「TOYAMA KATARAI CAFE」、「留学生向け企業見学会」、「産学官交流会」を行政・大学と連携し開催しました。

また、教育問題委員会は、海外教育事情視察の後継事業「教師と企業人との交流」、国際バカロレア認定校視察、県教育委員会との意見交換会などを開催するとともに、課外授業講師派遣にも積極的に取り組みました。

「持続可能な地域づくり」をテーマに、地域創生委員会は「魅力あふれる持続可能なまちづくり」実現のための「産学官連携のあり方」等について知見を深めるため、講演会や県外視察などを開催しました。

文化スポーツ委員会は、地域文化・スポーツ活動を支援し地域活性化に貢献することや、文化・スポーツによるまちづくりを考えるため、県内視察やスポーツ及び文化の「同友会の日」を実施しました。

4つの小委員会は、講演会・勉強会の開催、スケッチオーデションの実施、アスリート支援の仕組みづくりに向けた意見交換等に取り組みました。

2024年度は、委員会が連携する合同委員会と活動の取りまとめに正副委員長会議が多く開催され、委員会開催回数は前年度を上回り、活動が活発に行われたことを評価したいと思います。

以上、私からの説明とさせていただきます。

次年度の委員会編成と運営について

企画委員長 大橋 聡司



企画委員会は、各委員会の活動状況や課題を把握し、次年度以降の委員会編成について検討を行うため、4回の委員会と4回の委員長連絡会議を開催しました。

6月に第3回委員会を開き、活動方針及び年間計画について検討し、10月の第4回委員会は委員長連絡会議と合同開催で、各委員長から委員会運営上の課題等についてヒアリングを行い、11月の第5回委員会で、次年度以降の委員会編成の方向性について協議しました。

そして、1月に第6回委員会を委員長連絡会議と合同で開き、委員長から委員会編成の方向

性について意見を聞くとともに、委員会運営に関するオリエンテーション資料について協議しました。その結果を2月の常任幹事会に報告いたしました。

委員長連絡会議は、委員長相互の情報共有・連携を目的に四半期ごとに開き、7月の第5回は単独で、第6回及び第7回は、企画委員会と合同で開催しました。

3月には委員長と新委員長就任予定者にも参加してもらい、第8回の委員長連絡会議を開催し、2025年度からの委員会活動が円滑に進むよう、委員会運営に関するオリエンテーションを行うとともに委員会活動に関して意見交換を行いました。

以上で、企画委員会の活動報告を終わらせていただきます。

海外経済視察・国内交流について検討 交流委員長 伊東 潤一郎



交流委員会では、各地同友会との交流や当会の交流事業、海外経済視察を計画どおり実施しました。

当会の交流事業として、6月に当会OB・OG有志の会「全国立山大使の会」を日本橋とやま館「はま作」で開催しました。今回が5回目となり、参加者それぞれがユーモアを交えて近況報告を行い、和気あいあいとした楽しい会となりました。

海外経済視察は9月8日～9月16日にドイツを訪問し、産業のDX化・スタートアップ、GX、賑わいのあるまちづくりの先進的な取組みを視察しました。

8月には、新会員歓迎オリエンテーション・懇親会を開催し、牧田代表幹事に「富山経済同友会について」と題し、当会の活動について新

会員にご紹介いただき、新会員の皆様から一言ずつ自己紹介いただきました。

各地の経済同友会との交流としては、11月に甲府市で第32回経済同友会中央日本地区会議が開催され、「若者がいきいきと暮らせる地域づくり」をテーマに、各地同友会の取組みの発表と意見交換が行われました。

委員会は4回開催し、5月の第5回委員会では2024年度の活動計画について、11月の第6回委員会では、今年度の海外経済視察の振返りと次年度（第43回）海外経済視察の視察先の検討を行いました。

12月に開催した第7回委員会及び2月の第8回委員会では、2025年度海外経済視察に関し、旅行業者選定プロポーザルを実施し、視察先の検討を行いました。

以上で、交流委員会の活動報告を終わらせていただきます。

目からウロコの感動とディスカッションの機会を 企業経営委員長 高木 悦郎



持続可能な経営を目指すための諸課題への対応、あるべき経営者の姿に関して考えることをテーマに、2024年度は前年度に引き続き、目からウロコの感動とディスカッションの機会を提供するという目標を立て行いました。

5月には、第5回合同委員会として、楽天グループのチーフウェルビーイングオフィサーの小林正忠氏をお招きし、講演会を開催しました。昨年度の県外視察で楽天本社を訪問した際的小林氏のお話が大変強烈なものであったので、ウェルビーイング小委員会、アントレプレナーシップ小委員会と合同で開催しました。

7月には会員定例会を主管し、セコマの代表取締役会長の丸谷智保氏に地域型のしなやかな経営として、北海道に根差す地産地消型のセコマの経営について講演いただきました。

8月の第6回拡大委員会では、日本銀行の金沢支店長の大川真一郎氏に最近の金融情勢と金

融政策について講演いただきました。講演があった日は、日銀の利上げの影響もあり株価が大きく変動した日であり、参加者は大変興味深く聞きいりました。

11月には第7回委員会として会員企業訪問を行いました。午前中に建工ホールディングス、午後にスギノマシンの2社を訪問し、工場見学とディスカッションに時間をたっぷりとり、企業のダイナミズムや経営理念に基づいた経営を肌で体感しました。

2月には第8回委員会として三井物産戦略研究所の緋田特別顧問に昨年度に引き続き講演いただきました。アメリカ大統領選の直後であり、大変参考となりました。

「経営道場」は3月に開催し、廣田副委員長に発表いただきました。十全化学の新社屋を会場として使わせていただき、講演及びオフィスツアー、グループディスカッションが活発になされ、活気あふれる経営道場となりました。

景気定点観測アンケートは、7月と12月の2回実施し、賃上げ、大卒初任給、BCP計画の策定状況について調査しました。

企業経営委員会の活動報告は以上となります。

多様な人財が輝くために

人財活躍委員長 森 弘吉



活動2年目となる2024年度は、引き続き「女性活躍」「外国人材」「兼業副業人材」をテーマに活動し、4回の委員会と1回の定例会を主管しました。

4月には第3回委員会として高度外国人材活用の先進事例として、浜松を訪問し「eコモンズ」の視察及び、浜松経済同友会との意見交換会を行い高度外国人材活用の知見を深めました。

6月には第4回委員会をアスリート支援小委員会と合同で実施し、選手と会社員の「二刀流」、デュアルキャリアを実践するプロハンドボールチーム、富山ドリームス代表理事の徳前紀和氏に取組みについて講演いただき、受入企業である近藤建設からもお話をいただきました。

また、11月には「TOYAMA KATARAI CAFE」

を実施し、様々な国の学生を招き、企業経営者と学生との意見交換会を行いました。留学生と意見交換を行い、就職に対する思いを確認いたしました。

1月には第5回委員会を開催し、2年間の活動をまとめた提言書について委員と共有しブラッシュアップを行いました。

2月には第6回委員会として、全日本空輸インド総代表兼デリー支店長の片桐常弥氏にインド人材の魅力について講演いただきました。

そして、3月には、会員定例会を実施し、日本アイ・ビー・エム代表取締役社長執行役員の山口明夫氏にテクノロジーの進化やAIについて講演いただきました。

また、外部団体とも積極的に連携し、10月には富山県が主催する「産学官交流会」の共催や、富山大学とは留学生を対象とした企業見学バスツアーを実施しました。

人財活躍委員会の活動報告は以上となります。

教育現場との実りある交流

教育問題委員長 土屋 誠



活動2年目は前年度に引き続き、次世代を担う人材を育成する観点から、子どもたちの「生きる力」を高めるため、①教える側と②教えられる側の両面に対して、

活動に取り組みました。

6月には、立山町出身で高校在学中に起業し、子どもの学習支援等を展開する(一社)Teena Lightの山辺代表理事の活動を紹介しました。

海外教育事情視察の後継事業として、7月に1泊2日で「教師と企業人との交流」を開催しました。講演会やグループディスカッション、情報交換会、アクティビティ研修を通して、40名の先生方と交流を深めました。

10月には、今回で3巡目となる「5経済同友会教育担当委員会交流会」を主管し、さいたま市立大宮国際中等教育学校の視察と、意見交換を行いました。

11月には、特色ある学校づくりの先進的取り組みを学ぶことを目的として高知県を訪問し、探究学習で地域について学びを深める学校や、国際バカロレア認定校でもある県立の中高一貫教育校、公立小学校初の国際バカロレア認定校の3校を視察しました。

3月には、「県立高校再編」をテーマに、富山県教育委員会と意見交換を行いました。

課外授業講師派遣は、12校に延べ16名の講師を派遣しました。制度創設以来の延べ数は、350校・472名となっております。また、県や富山市等が開催する教員向けの研修会にも計8回延べ20名の講師を派遣しました。

これまでの活動を総括し、委員会でご意見をいただきながら、提言「教師と教育現場のチャレンジ支援のために」を策定しました。これにより、教師の人間力や教師力の向上、人間力をもった子どもたちの育成につながることを期待しています。

教育問題委員会の活動報告は以上です。

光り輝く富山の未来のために

地域創生副委員長 橋本 淳



活動2年目となる2024年度は、前年度に引き続き「魅力あふれる持続可能なまちづくり」の調査・研究を行うべく、計4回の委員会開催と1回の定例会主管を

行いました。

6月には第4回委員会を開催し、NTT西日本の寺田氏にウェルビーイングを軸とする最新のまちづくりトレンドを説明いただくとともに、同社のまちづくりの取組を紹介いただきました。そして8月、第5回委員会としてその取組を実際に現地の大阪で視察いたしました。共創施設の活気を体感し、「共創の好循環による持続可能なまちづくり」について学ぶとともに、大阪市の「将来像を軸とした官民連携まちづくり」のお話も伺いました。

12月には、文化スポーツ委員会と合同で第6回委員会を開催し、「余韻を楽しむまちづくり」の考え方とそのための公共交通の意義について学びました。

同じく12月、広島経済同友会まちづくり委員会と交流しております。富山市の協力のもと意見交換を行うなど、非常に有意義な再びの交流となりました。

1月には、会員定例会を主管し、福島国際研究教育機構の山崎理事長に講演いただきました。「イノベーションにより復興を実現し、その先の未来を切り拓く」との「創造的復興」に向けた同機構の取組について学びました。

以上の活動を踏まえ、1月の第7回委員会にて委員の皆様からご意見を頂戴しブラッシュアップのうえ、2年間の総括として提言書を策定しております。

地域創生委員会の活動報告は以上となります。

地域文化・スポーツによるまちづくりを 文化スポーツ副委員長 酒井 郁生



活動2年目となる2024年度は、文化芸術に親しみ、地域文化・スポーツ活動を支援し、地域活性化に貢献することをテーマに活動を行いました。

5月には、テノールオペラ歌手の澤武紀行さんに「その町に根付いた劇場運営」についてご講演いただき、講演後「世界一小さな劇場」でステージを堪能しました。

9月には、新しい富山の文化を創る人々をテーマに、黒部の造形作家である清河北斗氏、チーズ職人で歌手でもある吉田朋美氏、魚津のカナワイナリーの土井祐樹氏を訪ねました。県東部の地域資源の活用や伝統と革新の融合を実感できた視察となりました。

10月の会員定例会では、元ラグビー日本代表の畠山健介氏に「スポーツを通じて街や経済をいかに元気にするか」と題してご講演をいただ

きました。

12月には、地域創生委員会と合同で「余韻都市と公共交通の未来」と題し、東京大学の中村文彦特任教授にご講演いただきました。第2部では、都市の文化的機能とまちづくりについて、パネルディスカッションを行いました。

3月には、ミュージカル「みんなの歌謡ショー」を鑑賞し、鑑賞後に、出演された剣幸氏と演出の本間憲一氏をお招きし「劇場を拠点とする地域とアートのコミュニケーション」について、アフタートークを行いました。

「同友会の日」は、10月にカターレ富山、2月に富山グラウジーズの試合を観戦しました。また、新しく同友会の日文化バージョンを開催し、富山ジュニアオーケストラの初の定期演奏会を鑑賞しました。

以上、文化スポーツ委員会の活動報告は以上です。2年間ありがとうございました。

体験型の形式で活動

ESG経営小委員長 松田 光司



活動2年目となる2024年度は、ワークショップ、現地視察、勉強会と、体験型の形式で計3回の委員会を開催いたしました。

4月の第3回委員会では、カーボンニュートラルをテーマとして、北陸電力が制作したカードゲームを体験いたしました。小学校高学年向けながら、経営の視点であらためて気づかされるが多かった、との声をいただいております。

8月の第4回委員会では、北電産業が展開する河川水を活用した富山駅北地域熱供給事業を取り上げました。河川にある取排水口やプラントの実機を現地で見学し、省エネルギー性等に優れた同事業の意義を深く学ぶことができました。

11月の第5回委員会では、サステナビリティをテーマに二部構成で勉強会を行いました。まずは北陸電力の事例を基に意見交換をした後、味の素の森島執行役常務から先進的なサステナビリティの取組みについてご教示いただいております。

ESG経営小委員会の活動報告は以上となります。

若い世代に起業家精神を！アントレプレナーシップ小委員長 村上 宏康



活動2年目となる2024年度は、昨年に引き続き当会、とやま未来共創チーム、富山ニュービジネス協議会、富山大学と共に「スケッチオーデション」の運営と、合同委員会を開催しました。

5月には、合同委員会として楽天グループチーフウェルビーイングオフィサーの小林正忠氏に六人でスタートした楽天グループが現在のグローバル企業へと成長するまでの軌跡を、挑戦

の連続という観点から熱く語っていただきました。

スケッチオーデションでは、6回の講義に毎回様々な分野の専門家を招き、参加者の知見を深めるだけでなく、モチベーションアップとなるような講義をしていただきました。

今年度は86名の中학생から社会人までの幅広い方からの参加があり、3月の決勝大会では今年も高校生が優勝するなど、アントレプレナーシップが徐々に浸透し、活気のある事業となりました。

アントレプレナーシップ小委員会の活動報告は以上となります。

ウェルビーイングを自分事に

ウェルビーイング小委員長 東出 悦子



活動2年目は、前年度に実施した勉強会を通じて得た知見をもとに、ウェルビーイングをそれぞれの企業に落とし込み、自分事として考えることを目的として計2回の委員会を開催しました。

5月には、第2回委員会を企業経営委員会及びアントレプレナーシップ小委員会と合同で開催し、楽天グループの常務執行役員 チーフウ

ェルビーイングオフィサー小林正忠氏より、楽天創業時からの数々のチャレンジを例に、社員一人ひとりが働きがいを感じられる職場づくりの重要性について伺いました。

11月に開催した第3回委員会は、中小企業のウェルビーイングな組織づくりを支援する活動をされている山川泰介さん、衣川由希子さんを講師にお招きし、ワークショップ形式で実施しました。ウェルビーイングな組織とはどんな組織か、また、その実現に向けた具体的な方策について考える、非常に有意義な機会となりました。

ウェルビーイング小委員会の活動報告は以上です。

アスリートと企業の相思相愛のマッチングができる仕組みを考える アスリート支援小委員長 遠藤 忠洋



活動2年目となる2024年度は、前年から引き続き、「受け入れ企業が『入れてあげてもいいよ』ではなく『是非来て欲しい』、アスリート側は『是非この企業に入社したい』という相思相愛のマッチングができる組織の構築」をテーマに活動を行いました。

6月には、人財活躍委員会と合同で、デュアルキャリア支援に取り組む富山ドリームスの代表理事の徳前紀和氏に、スポーツ選手と企業が

互いに地域に貢献する仕組みについて、お話を伺いました。

9月には、2024年2月にオープンした金沢ゴーゴーカレースタジアムへカターレ富山対ツエーゲン金沢の北陸ダービー戦の観戦バスツアーを企画しました。

3月には、当委員会がこれまでテーマとして取り組んでいたアスリートと企業をマッチングする組織である(株)ドリームキャリア富山に、事業内容についてお話を伺いました。

アスリート支援小委員会の活動報告は以上となります。

2025年度 事業計画

課題解決に向け活動の更なる深化を

副代表幹事 大橋 聡 司

2025年度の事業計画案についてご説明いたします。

世界的なエネルギー供給不安、物価上昇、第二期トランプ政権の追加関税の発動などにより、



これまで以上に先行き不透明感が高まっており、こうしたVUCAの時代だからこそ、当会としては、地域経済の発展に貢献するという理念のもと、2021年度の当会SDGs宣言に基づき、持続可能な地域社会の実現に貢献する取り組みを積極的に推進してまいりたいと存じます。

このため、地域が抱える課題解決に向けてリーダーシップを発揮することを念頭に、当会活動の要となる委員会編成を、組織・会務のための委員会と地域課題の解決に資する調査・研究を行う委員会に分け、調査・研究の委員会をこれまでの5つから8つに増やし、活動を深化させていきます。

具体的には、組織・会務のための委員会は、「総務企画委員会」と「交流委員会」を設け、会員増強、エンゲージメント向上、他経済団体・

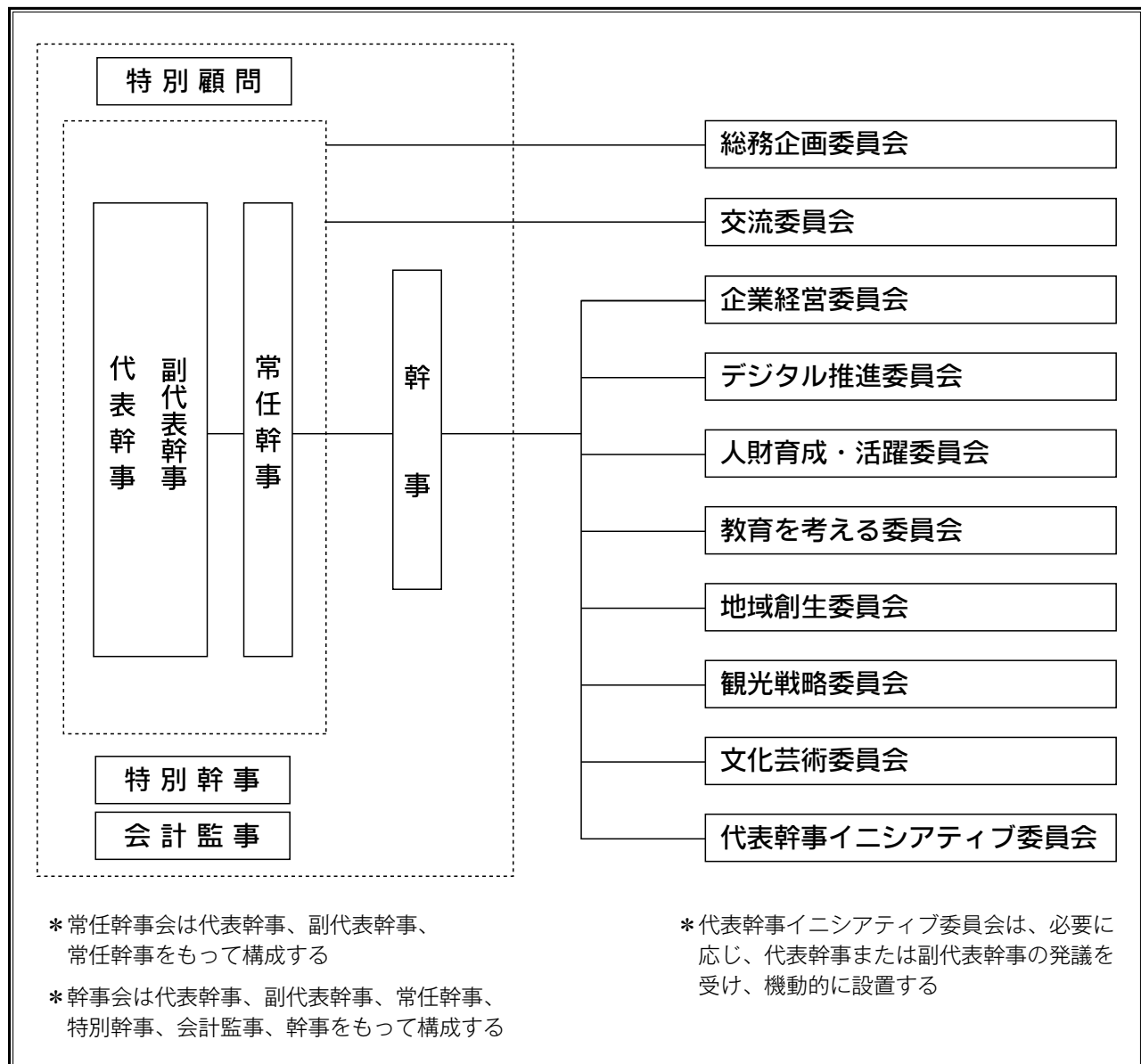
アカデミア・行政との連携に、代表幹事以下役員、委員会も加わり積極的に取り組んでいきます。

調査・研究の委員会は、①持続可能な企業経営は「企業経営委員会」と「デジタル推進委員会」、②持続可能な人づくりは「人財育成・活躍委員会」と「教育を考える委員会」、③持続可能な地域づくりは「地域創生委員会」と「観光戦略委員会」、「文化芸術委員会」を設け、さらに、今年度から新たに、重要政策課題への迅速な対応を目的とした「代表幹事イニシアティブ委員会」を必要に応じて機動的に設置し、代表幹事の諮問テーマに関し、調査・研究し提言を取りまとめるものといたします。

国においては、多極分散型の多様な経済社会の構築に向けて「地方創生2.0」を掲げ、政府関係機関や企業の本社機能の地方移転、地方における新たな産業の創造を促進するとされており、社会の変化を好機と捉え、「連携」・「創造」・「行動」をキーワードに会員一人ひとりが積極的に行動し、富山の発展と日本の再生に貢献していきたい。

以上2025年度の事業計画についてご説明申し上げます。

組織図



【委員会、委員長、担当役員】

委員会名	委員長	担当役員	備考
総務企画委員会	山野 昌道	松田 光司	
交流委員会	島田 好美	伊東潤一郎	
企業経営委員会	山田 恵子	中澤 宏	
デジタル推進委員会	西田 美樹	石倉 央	
人財育成・活躍委員会	西能 淳	中沖 雄	
教育を考える委員会	寺島 雅峰	石坂 兼人	
地域創生委員会	橋本 淳	稲田 祐治	
観光戦略委員会	酒井 郁生	森田 弘美	
文化芸術委員会	近藤 裕世	浅野 雅史	
代表幹事イニシアティブ委員会			適宜、設置・選任

富山経済同友会 役員名簿 (2025年度)

(敬称略、◎は新任)

【特別顧問】7名

古 田 暉 彦 元 北陸電力(株)副社長
 中 尾 哲 雄 志道経営研究所代表
 高 木 繁 雄 元 (株)北陸銀行頭取
 久 和 進 北陸電力(株)相談役
 米 原 蕃 米原商事(株)特別顧問
 新 田 八 朗 元 日本海ガス絆ホールディングス(株)社長
 塩 井 保 彦 (株)広貫堂取締役副会長

【代表幹事】2名

麦 野 英 順 (株)北陸銀行特別顧問
 牧 田 和 樹 (株)MGG 取締役社長

【副代表幹事】3名

桶 屋 泰 三 桶屋税理士事務所所長
 大 橋 聡 司 大高建設(株)代表取締役社長
 松 田 光 司 北陸電力(株)代表取締役社長

【常任幹事】10名 (うち、新任1名)

稲 田 祐 治 (株)ミライノ交通観光ラボ代表取締役
 石 坂 兼 人 石坂建設(株)取締役社長
 山 野 昌 道 (株)チューリップテレビ取締役社長
 森 田 弘 美 (株)グループフィリア代表取締役
 中 澤 宏 (株)北陸銀行取締役頭取
 中 沖 雄 (株)富山銀行取締役頭取
 伊 東 潤一郎 アイティオ(株)代表取締役社長
 浅 野 雅 史 (株)バロン代表取締役
 島 田 好 美 (株)島田商店会長
 ◎石 倉 央 (株)F P 不動産センター代表取締役

【特別幹事】12名 (うち、新任1名)

金 岡 純 二 (株)富山第一銀行相談役
 林 和 夫 朝日建設(株)代表取締役
 松 原 吉 隆 大同産業(株)取締役社長
 多 田 慎 一 第一物産(株)相談役

金 尾 雅 行 富山港湾運送(株)代表取締役社長
 金 岡 寛 金岡忠商事(株)代表取締役相談役
 若 林 啓 介 紙ぶらす(株)代表取締役会長
 久 郷 慎 治 (株)久郷一樹園代表取締役
 羽 根 由 (株)生活ネット研究所代表取締役
 津 嶋 春 秋 (株)アーキジオ代表取締役会長
 白 倉 三 喜 富山駅前開発(株)代表取締役
 ◎池 田 安 隆 (株)池田屋安兵衛商店代表取締役

【会計監事】2名

板 谷 聡 板谷経営工房(有)取締役社長
 中 村 厚 日本クレアスコンサルティング(株)代表取締役

【幹 事】87名 (うち、新任10名)

四十物 直 之 (株)四十物昆布取締役会長
 池 田 治 郎 富山いすゞ自動車(株)代表取締役社長
 伊 勢 徹 (株)ライフサービス代表取締役
 市 森 友 明 N i X J A P A N(株)代表取締役社長
 稲 垣 晴 彦 北陸コカ・コーラボトリング(株)代表取締役会長
 稲 田 裕 彦 救急薬品工業(株)代表取締役
 稲 葉 伸 一 (株)三四五建築研究所代表
 井 上 敏 夫 井上機材(株)代表取締役
 今 井 壽 子 (有)ゼフィール相談役
 梅 田 ひろ美 (株)ユニゾーン代表取締役会長
 浦 山 哲 郎 (学)浦山学園理事長
 遠 藤 忠 洋 富山交易(株)取締役社長
 ◎太 田 俊 也 三井物産(株)北陸支社長
 奥 野 博 之 オークス(株)取締役会長
 押 田 洋 治 (株)押田建築設計事務所会長
 小 竹 秀 子 オダケホーム(株)取締役社長
 片 山 浄 見 (株)富山育英センター取締役会長
 川 合 紀 子 (有)ステップアップ代表取締役
 河 上 弥一郎 河上金物(株)代表取締役会長
 ◎北 村 耕 作 キタムラ機械(株)代表取締役
 木 村 準 (株)日本抵抗器製作所取締役社長

金 田 俊 樹	(有)きんた代表取締役	◎平 田 純 一	日本海ガス絆ホールディングス㈱代表取締役副社長
黒 田 昭	(株)三田商会相談役	福 島 鉄 雄	(株)エフテック代表取締役社長
小 林 紀 男	富山日野自動車㈱取締役会長	福 田 可 也	(株)クレハロ取締役会長
◎近 藤 裕 世	近藤建設㈱代表取締役	藤 井 久 丈	医療法人社団藤聖会理事長
西 能 淳	特定医療法人財団五省会理事長	細 川 泰 郎	細川機業㈱取締役社長
酒 井 郁 生	(株)シー・エー・ピー代表取締役	本 間 比呂詩	オリジン工業㈱相談役
佐 藤 幸 博	(株)柿里代表取締役	◎牧 真奈美	(株)クルサー代表取締役
洪 谷 清 澄	(株)エヌエスブレイン取締役社長	益 田 貴 司	ブリーズバイオレーション3号機 (ホテルグランテラス富山) 執行役
島 田 俊 晴	(株)島田樹脂代表取締役	増 山 一 雄	増山電業㈱代表取締役
◎上 願 宏 幸	(株)ホクタテ代表取締役	松 嶋 重 信	(株)司ファシリティーズ専務取締役
◎白 川 友 之	日本放送協会富山放送局局長	水 口 昭一郎	立山科学㈱取締役会長
相 馬 淳 一	トワードローンサービス㈱代表取締役	翠 田 章 男	(株)トンボ飲料取締役社長
大 門 督 幸	伏木海陸運送㈱取締役社長	村 上 宏 康	(株)ワプラス代表取締役
高 木 悦 郎	T S K㈱代表取締役会長	森 弘 吉	(株)エムダイヤ代表取締役
高 田 千 明	高田食糧㈱取締役社長	森 幹 男	森商事㈱代表取締役
高 野 二 朗	タカノ建設㈱取締役社長	森 田 幸 弘	(株)押田会計代表取締役社長
武 内 繁 和	武内プレス工業㈱取締役社長	森 藤 正 浩	正栄産業㈱代表取締役
竹 内 茂	(株)婦中興業取締役社長	柳 川 三千代	(株)モーヴ代表取締役
武 内 孝 憲	(株)牛島屋代表取締役	山 口 昌 広	北酸㈱取締役社長
舘 直 人	たち建設㈱代表取締役	山 瀬 孝	(株)ジェック経営コンサルタント取締役社長
田 中 悟 史	(株)日本政策投資銀行富山事務所長	山 田 岩 男	富山電気ビルディング㈱取締役社長
棚 田 一 也	北陸電力送配電㈱代表取締役社長	山 田 恵 子	山田工業㈱取締役社長
田 村 元 宏	(株)タムラ設計・代表取締役	山 本 小 恵	山本司法書士事務所所長
土 屋 誠	日本海ガス㈱取締役会長	吉 田 登	北登精機㈱代表取締役
寺 下 利 宏	(株)ソシオ代表取締役	米 田 祐 康	金剛薬品㈱代表取締役会長
◎寺 島 雅 峰	(株)寺島コンサルタント代表取締役		
東 澤 善 樹	とうざわ印刷工芸㈱代表取締役社長		
中 川 雅 弘	(株)K E C 代表取締役		
永 田 義 邦	(一財) 北陸予防医学協会会長		
西 田 美 樹	(株)P C O 代表取締役		
西 野 晴 仁	(株)福見建築設計事務所代表取締役		
丹 羽 誠	(有)ライフプラン研究所代表取締役		
野 村 充	(株)富山第一銀行取締役頭取		
橋 本 淳	サクラパックス㈱代表取締役		
長 谷 佳 子	(有)小杉スポーツ代表取締役		
長谷川 達 雄	中央薬品㈱代表取締役		
羽 根 敬 喜	富美菊酒造㈱代表取締役		
◎林 政 義	北陸電力㈱常務執行役員		
針 田 正 尚	クリーン産業㈱代表取締役		
東 出 悦 子	(株)アイベック代表取締役		
◎東 山 真 也	西日本電信電話㈱富山支店長		

以 上

(2025年 4 月24日現在)

様々な人財が輝くために

— 人財活躍委員会、提言を発表 —

人財活躍委員会（森弘吉委員長）は、提言『様々な人財が富山で輝ける社会を目指して』をとりまとめ、3月幹事会での審議を経て、3月31日(月)に山室芳剛



山室商工労働部長へ手交、富山県商工労働部長へ手交、意見交換を実施した。なお、手交には、森委員長、松田浩樹副委員長が出席した。

人財活躍委員会では「女性活躍」「高度外国人材」「兼業副業人材」をテーマに挙げ2年間の活動に取り組んできた。

今回の提言は、少子高齢化や人口減少が進み、人手不足が加速している中で、人材の活用が不可欠であるとの考えに基づき、「多様な人材採用に向けた採用活動の連携強化」「状況に応じた活躍できる環境作りの推進」の2つのポイントで提言を行った。

まず、採用活動は年々高度化しており、個々の企業が各自で行うのではなく、一丸となって行っていくべきである。また、高度外国人材の活用に向け企業が一步踏み出せるよう、外国人材のサポートを行うプラットフォームの構築を求めるなど、「多様な人材採用に向けた採用活動の連携強化」を行政を中心に推進すべきであ

るとした。

次に、企業活動において「女性」「高度外国人材」「兼業副業人材」それぞれが活躍できるよう、企業は従業員との対話を重ね、個々の考え方を尊重する取り組みが求められる。このような視点から「状況に応じた活躍できる環境づくりの推進」を企業は進めるべきであるとした。

これらに取り組むことにより、すべての人が活躍できる「みんなが輝ける社会」が期待できる。

提言の概要は、以下のとおり。

〈委員長所感〉

委員会活動では、多くの「気づき」と「学び」がありました。進学で富山を離れた女性が、再び戻ってくるためには、

- ①働きやすい職種や職場の充実
- ②娯楽やコミュニティの充実
- ③昔ながらの風土や風習の意識改革が必要です。



森委員長

経済界として、出来る事を様々な機関と連携しながら、今まで以上に良い富山になって行くことを期待します。

委員会活動に関わっていただいた全ての皆様に感謝いたします。

ありがとうございました。

提言の概要

○提言の趣旨

少子高齢化や人口減少により人手不足が進む中、多様な人材の活用が不可欠である。

1. 「女性活躍」「高度外国人材」「兼業副業人材」への取り組みと見えてきたポイント

各テーマにおける現状の把握・整理、課題の明確化を行い、委員会として講演会の実施や、先進事例の視察、「TOYAMA KATARAI CAFE」などのイベント開催などに取り組んできた。

その中で、見えてきたポイントをそれぞれ挙げ、洗い出しを行った。

2. 課題解決に向けた2つの提言

① 多様な人材採用に向けた採用活動の連携強化【行政・企業・経済団体・教育機関】

- ・県や市町村、経済団体、教育機関が統一かつ長期的な戦略を構築し、採用活動の実効性を高めるべく、多様な人材活用を推進すべき

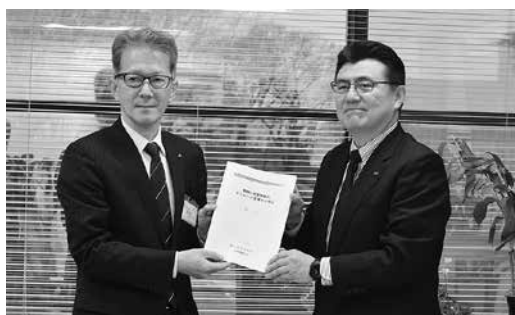
② 状況に応じた活躍できる環境作りの推進【企業】

- ・企業活動に多様な人材を活用し、その能力を最大限に発揮できる取り組みを推進すべき

教師と教育現場のチャレンジ支援のために

— 教育問題委員会、提言を公表 —

教育問題委員会（土屋誠委員長）は、第13次委員会（令和5年度～令和6年度）の活動を総括し、提言「教師と教育現場のチャレンジ支援のために」をとりまとめた。3月幹事会での審議を経て、3月28日（金）に富山県教育委員会 廣島伸一教育長に提言書を手交し、幹部職員との意見交換を実施。教師が校外の人と交流することは、一人間としても非常に大切で、それが子



廣島教育長へ提言書を手交する土屋委員長

どもたちの教育に繋がるとよいとの認識を示した。土屋委員長のほか、稲田祐治担当役員、寺島雅峰副委員長が同席した。

〈委員長所感〉

第12次委員会にて提言された内容をもとに第13次委員会では我々企業人が教育現場に対して何ができるかを考えてきた。子どもたちの「生きる力」を高めるためには教師力向上が不可欠であり、その一つの手段として教師が学校関係者以外と交流をすることが有効ではないかと考える。しかし我々富山経済同友会の活動では限りがあることは明確である。教師力向上に向けての富山県の施策として今回の提言内容が盛り込まれることを期待する。



土屋委員長

提言の概要

— 教師のチャレンジ支援 —

「教師力向上」のために、教育現場や経済界各種団体、企業が連携し、私立学校教師を含む県内の教師が学校関係者以外と交流できる機会を創出すべき

背景

海外教育事情視察／教師と企業人との交流

- ・視察、企業人の講演、意見交換の実施
- ・食事をともにし、交流を深める

〈参加教師の感想〉

- ・視野を広げ、新たな気付きを得ることができる
- ・子どもたちを送り出す社会について知るきっかけとなる 等

教える側である教師の人間力や教師力の向上によって、人間力をもった子どもたちの育成につながる

— 教育現場のチャレンジ支援 —

「特色ある教育現場」として中高一貫校、国際バカロレア認定校の設立を実現すべき

背景

- ・県内に公立中高一貫校はない
- ・「特色ある学校」とは？

中高一貫校

- ・6年間の継続した中等教育により系統的、継続的な学習活動の展開
- ・子どもたちが未来を見据えて時間を過ごせる

国際バカロレア認定校

子どもたちが自ら情報を収集し、とことん考えて答えを導き出す様子

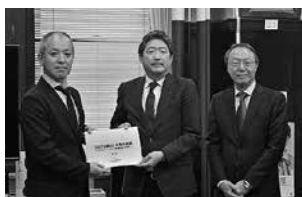
子どもたちの選択肢を増やすとともに個人の特性や興味・関心によって進路選択できる環境づくりが必要

つながる富山、共創の未来 ～エリアリノベーションで描く新たな100年～ — 地域創生委員会が提言 —

地域創生委員会（池田治郎委員長）は、今期活動の成果として提言『つながる富山、共創の未来～エリアリノベーションで描く新たな100年』をとりまとめた。神通川旧河道エリアを若者で賑わう共創空間とすべく、官官および産学官民が連携した能動的な組織を立ち上げるべき、とした。吉田公民連携推進監へ提言を手交する3月幹事会での審議を経て、3月19日(水)に富山市の清水企画管理部長へ、3月24日(月)に富山県の吉田公民連携推進監



清水企画管理部長へ提言を手交する池田委員長（中央）、池田担当役員（右）



吉田公民連携推進監へ提言を手交する池田委員長（中央）、池田担当役員（右）

へ、それぞれ手交するとともに、3月24日(月)開催の第3回富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会にて概要を紹介した。

〈委員長所感〉

我がまち富山市がNYタイムズ紙によって突然の世界進出を果たした。インバウンドの増加が期待できる。世界中からやってくる人達には、存分に楽しんで欲しい。“skipping the crowds”ではあるけれど、若者たちで賑わう明るい街だと感じて欲しい。そうありたい姿に近づくために、やるべきことを提言書に纏めさせて頂いた。キーワードは『つながる』だ。この提言が、今後の富山を光り輝かせる一助となることを願いたい。



池田委員長

提言の概要

＜提言概要＞

I 現状と課題

富山県の課題
課題解決に向けた取組みは待たなし
人口減少
少子化、女性・若年層の転出超過
県都である富山市の人口も減少
自然災害に対するまちの脆弱性
能登半島地震で甚大な被害

県都中心市街地の課題
「神通川旧河道エリア」のポテンシャルを活かせていない
県庁周辺エリアによる南北の分断
官庁街で経済活動や休日・日中の人流が少なく
実働するエリアマネジメント組織がない
県有地の有効活用が不十分
長らく十分な投資がなされていない

変化の兆し
産学官民がそれぞれ危機感を持ち、県都の再生に向けて取組みを開始

県 県庁周辺エリアの再生に向けた検討開始
経済界 市街地再開発事業やスポーツを核としたまちづくりの動き
産学官 県庁周辺エリア未来ビジョンの取りまとめに向けた対話の場が設置
市 都市計画マスタープランを改訂中

今こそ、これから100年先を見据え、産学官民が一致団結してまちづくりに取り組むべき

II 調査・検討

事例調査

広島 都心部の再開発と中山間地との連携
産学官民の連携を促すプラットフォーム

松山 歩行者空間・自転車インフラの整備
公民学連携まちづくり組織

大阪 地域の課題解決・グローバルな発展に貢献する民間企業主導の共創施設

福井 官官連携・官民連携によるビジョンの策定
具体的な事業を展開するまちづくりの会社

事例調査の学び

広域的な都市への視点
総合的かつ広域的な都市への視点を持ちつつ、「鉄軌道王国とやま」のポテンシャルを最大限活用

特定のエリアへの視点
公益性と経済性を兼ね備えた都市整備の種地とならう神通川旧河道エリアの固有地に着目し、具体的なビジョンを構築・見える化し、共有、意思統一を図る

具体事業の創出
ビジョンや計画に基づき
具体事業を立ち上げ実現することが肝要

産学官民および官官の連携
産学官民が連携してまちづくりに取り組むべき
県と市の強固な協力体制の構築が不可欠

III 提言

旧河道エリアを若者で賑わう共創の空間へ！官官／産学官民が連携した能動的な組織立ち上げを！

【エリアリノベーションの実装】

提言① 旧河道のエリアリノベーション
駅周辺エリアと商店街エリアを結ぶ南北軸を分断している東西軸の「旧河道エリア」を百数十年ぶりにリノベーションすることで、再び県都に都市レベルでプラスのインパクトを与えるべき

提言② 暮らし・憩い・楽しみ・学び
100年先を見据え、豊かな暮らしを形作る「憩い」と「楽しみ」、そして「学び」の空間や場づくりを主目的とすべき

ウォークラブルw/公共交通
まちなかスタジアム
まちなかキャンパス・イノベーション共創施設
グリーンインフラ

【エリアマネジメントの促進】

提言③ 産学官民による持続的なエリアマネジメント
産学官民がエリア未来ビジョンを共有、しかるべき組織を形成のうえ、経済性と公益性の両立を志向する真に持続的な「まちの運営と経営」を図るべき

＜県庁周辺エリア＞
ビジョン実現に向け実働するエリアマネジメント組織

＜神通川旧河道エリア＞
エリアリノベーションを強力に推進する「県市合同チーム」

＜県全域レベル＞
エリアマネジメント組織間の「連携・調整役」を担うプラットフォーム組織

提言④ とやまを愛するプレイヤーを育てる事業とプロセス
“とやま愛”を醸成し、まちづくりを主体的に担うプレイヤーを増やし育て、多様な主体が“つながり”、価値を“共に創り”出し高めあう、人流創造の生態系（エコシステム）を形成すべき

●小規模事業を同時多発的に創出
●若者・地域住民など多様な主体の参画を促進

●民間主導の「公民連携」を基本
●県外・国外に開かれたパートナーシップ構築

【県都から県全域への展開】

提言⑤ 全県的なコンパクト＋ネットワーク戦略
富山県は各市町村とワンチームとなり、全県的な「コンパクト＋ネットワーク戦略」を推し進めることが期待され、地元経済界や大学等は全面的に協力すべき

エリアリノベーション **エリアマネジメント**

人流創造

「鉄軌道王国とやま」ならではの公共交通を軸としたまちづくりで県都の人流創造効果を県全域に波及

人材育成やまちづくりをテーマに約1,300人が集う

～ 第37回全国経済同友会セミナー（広島） ～

全国44の経済同友会が共催する「第37回全国同友会セミナー」が4月17日、18日の2日間、広島市のリーガロイヤルホテル広島で開催され「50年後も輝き続ける『まち』であるために」を総合テーマに人口減少が進む中、多様な人材の育成や持続可能なまちづくりについて意見を交わした。



当会からは、麦野英順・牧田和樹両代表幹事をはじめ22名が参加、全国から約1,300名が参加し盛大に開催された。

開会にあたり、全国セミナー企画委員長の山下良則（公社）経済同友会副代表幹事が挨拶し、広島経済同友会の武田龍雄代表幹事と湯崎英彦広島県知事が歓迎の挨拶を述べた。

基調講演ではフリーキャスターであり事業創造大学院大学客員教授の伊藤聡子氏が「サステナビリティと地域の可能性」と題し講演した。

その後、分科会が実施され「人づくり」「街づくり」「地域づくり」の三つのテーマに分かれた。「人づくり」分科会では少子高齢化や地方の若者の都市部への流出、労働力不足が進む中、活力ある社会の実現に向け、ダイバーシティを受け入れる重要性を議論した。「街づくり」分科会では、産学官連携による街づくりについて、広島の都市再生や特区に指定された他都市の成功事例を踏まえ議論した。「地域づくり」分科会では、スポーツを通じた地域コミュニティの再生や地域活性化をテーマに企業が地域づくりに果たす役割を議論した。また、特別分科会ではマツダミュージアムを視察し、105年にも及ぶマツダのものづくりへの思いを体感した。

続いて、お好み焼きや地酒など地元の特産品をふんだんに取り入れた懇親パーティーが開催され、広島の魅力あふれるおもてなしをいただいた。



懇親パーティー

その後、恒例である富山経済同友会の懇親会「富山ナイト」が広島市内の居酒屋に会場を移して行われ、ここでも地元の味を楽しんだ。

2日目の分科会報告では、各分科会の座長が討議内容を振り返り、新浪剛史（公社）経済同友会代表幹事が、日本経済の活性化のためには、企業の新陳代謝の促進、人材の流動化、スタートアップ支援が不可欠であり、経済同友会が推進役となることへの期待を示し、日本の強みである「共助」の精神とコミュニティを再構築し、持続可能な国づくり、地域づくりを進めることが重要であると述べセミナーを総括した。



新浪代表幹事

そして、能楽師 シテ方喜多流の大島衣恵氏が「能への道しるべ」と題し特別講演を行った。

閉会にあたり、次期開催地である土佐経済同友会の横山敬代表幹事及び同会の参加者一同が次年度セミナーへの参加を呼びかけ、武田代表幹事が感謝を込めて閉会挨拶を述べ、2日間にわたるセミナーが終了した。

AI と DX で切り拓く企業経営

山口 明夫 氏講演 — 3月会員定例会 —

3月会員定例会を3月5日(水)、オークスカナルパークホテル富山で開催し、日本アイ・ビー・エム(株)代表取締役社長執行役員の山口明夫氏が「テクノロジーの進化と企業経営」と題して講演した。人財活躍委員会が主管し、会員約120名が参加した。

山口氏は、世界経済は成長基調にある一方で、地政学リスクなどにより不確実性が増している現状に言及。日本では、物価・賃金は上昇傾向にあるが、生産性の低さが依然として課題であり、その克服にはイノベーションと生産性の向上が不可欠であると述べた。

続いて、AIの進化と今後の可能性についてわかりやすく解説し、実際の企業での活用事例を紹介した上で、テクノロジーの進化を見極めた経営判断をするべきであるとした。

さらに、IBMでの取り組みとして、従業員一人ひとりに合わせた学習コンテンツの提供や

「IBM SkillsBuild」、IBM 地域 DX センターの設置などによる人材育成と地域共創の推進を紹介した。

最後に、量子コンピューターやニューロモフィックコンピューターといった次世代コンピューティングの開発も進む中、ラピダスと連携した2ナノ半導体の国産化への挑戦を

紹介し、より良い社会と地域社会の共生を目指していると述べ講演を締めくくった。



3月会員定例会 (2025. 3. 5) 講演録

「テクノロジーの進化と企業経営」

日本アイ・ビー・エム株式会社 代表取締役社長執行役員 山口 明夫 氏



(プロフィール)

1964年生まれ、和歌山県出身。1987年、日本 IBM に入社。エンジニアとして金融機関のシステム開発・保守に携わった後、2000年問題対策のアジア地域担当や日本 IBM の戦略立案に携わる。ソフトウェア製品のテクニカルセールス本部長、米国 IBM での役員補佐を歴任。取締役専務執行役員、グローバル・ビジネス・サービス事業本部長を経て2019年5月より日本アイ・ビー・エム株式会社 代表取締役社長に就任。本社経営執行委員も務める。

1. 企業を取り巻く現状

世界経済は、IMF見通しによると、成長率は2025年、26年、共に3.3%、インフレ率は25

年が4.2%、26年が3.5%と成長基調にあります。しかし、第2次トランプ政権が発足したことで、いい方向なら、米国牽引による世界経済の成長



加速、石油増産によるエネルギーコストの低下、ロシア・ウクライナの停戦へと進みますが、悪い方向なら、関税政策によるダメージ、気候変動対策の後退、関連投資の減速、中東の紛争再発と、不確実性が増大する状況です。

そんな中で、日本に目を向けますと、2013年以来、異次元の金融緩和や極端な円高の是正、また企業ガバナンスの改革等、日本再興戦略による政府の取組が推進されました。しかし、2021年からはエネルギー価格の高騰と人材不足が要因となり、コストプッシュ型によるインフレが始まりました。物価上昇率は2021年までの0%から22年には2%に、名目賃金についても、23年の3%超から25年は4%超という形で上昇している状況です。

また、日経平均は2013年以降、年率が11%、2023年で国内設備投資は10.6%、名目GDPも4.9%と、かなり成長基調にあります。しかし、労働生産性については、2024年、日本は1時間当たり56.8ドル。米国の97.7ドル、OECD平均の71.3ドルに比べてかなり低いのが実態です。

したがって、賃金、物価の上昇を経済の好循環に至らせるには、イノベーションも含めた形で生産性をいかに向上させていくかが重要となります。これができなければ、デフレへ逆戻り。長期リスクを解決できず、国家的な災厄に向かってしまいます。

企業競争力の強化は、法人税収の増加や持続的な賃金上昇をもたらし、国内投資の増加につ

ながります。そして、財政の健全化に役立ち、社会保障の再建も進むというのが一つのシナリオです。ベースとなる経済を強くするには、イノベーション、生産性の向上がルートになります。それには、テクノロジーの活用が重要であり、その中でも、特にAIについて本日はお話しします。

1950年代に「人工知能」という言葉が使われ、研究も始まっておりましたが、1962年、チェッカーゲームで、コンピューターがプロに勝ちました。人間以上の賢さが言われる風潮が出たのが、日本では「鉄腕アトム」の放映開始となったこの時代です。1990年以降にはコンピューターの処理能力が格段に上がり、1997年、チェスの世界チャンピオンとの対戦で勝利。そして2011年には、米国のクイズ番組でクイズ王にも勝ちました。

クイズ王に勝てたのは、ウィキペディアに約500万件のデータが集まり飽和してきた頃、つまり人類の集合知がほぼデジタル化され、十分なデータを読み込ませられたからです。つまり、AIはコンピューターの処理能力の上昇と、アクセスできるデータの量がそろそろ進化します。しかし問題は電力消費量で、効率化が追いついていません。

生成AIは、利用者の要求に応じて文章や画像、動画、音声、ソフトウェアコードなどのオリジナルコンテンツを作成できます。例えばゴルフですが、マスターズのプレーをAIに見せ、そ



KOUENROKU

の AI がアナウンサーのように、音声による解説もできます。

AI の技術進化について見ますと、1990年代はエキスパートシステムと言われ、「IF ～、THEN ～」、もし何々ならば何々というように人間がルールを書いて答えを導くものでした。例えば「もし哺乳類なら」「三角形の耳を持つなら」「体長が60-80センチなら」とイエス・オア・ノーを順に聞いていき、最後に「猫」と分かります。

2000年代は機械学習です。処理能力が上がり、例えば「耳が三角形、目が黒、体長が60センチ、答えは猫」「垂れ耳、目が黒、体長が100センチ、答えは犬」というように、「耳の形、目の色、体長、答」の大量のデータをテーブル（表）に入れ、機械に学習させる形で答えを導き出します。しかし、柔軟性には欠けます。

2010年頃からは、例えば人間が画像に、「猫」「犬」「猿」などと一つひとつラベルをつけた大量のデータをコンピューターに読み込ませ、そこからルールを自動生成させる深層学習が進みます。「AI って、すごい」と言われる反面、その作業は大変でしたが、成果は出ました。

そして、2020年に入ると、今度はラベルのない超大量のデータを分析してルールを自動生成する AI、基盤モデル／LLM（大規模言語モデル）が出てくるというように、AI の技術は進化しています。

この生成AIの構成要素は4つあります。まず、お客様の企業における融資や販売、人事といった業務プロセスとして適用する AI。そして、処理を行う AI のモデルやプログラム、それを作るために使用するデータ及びデータ処理に必要なコンピューターのプロセッサです。

最近話題に上った NVIDIA ですが、この会社のプロセッサが AI 処理に最適ということで株価も上がっていたわけです。ただ、AI 処理の際、非常に発熱するという問題も発生して

いました。それは消費電力が大きいことを意味します。どれだけ熱効率のいい物をつくるか、世界中がその領域で対抗しております。

そして、AI の進化の方向性ですが、皆さんは生成 AI について、質問して答えをもらう形の、有名な ChatGPT をお使いになる方々が多いかと思います。これは OpenAI 社がつくった大規模言語モデルの AI です。しかし、中にあるデータは、その企業が全て管理、「専有」しているわけです。

そんな中、特定の企業だけではなく、「オープン」、世界中の様々な人が共同で開発する AI がどんどん出来上がっています。そして、その上に、例えば金融、製薬等といった業務特化型の AI をつくろうとしています。ですから、汎用型から特化型モデルへ、専有からオープンな AI の世界へと推移しているのです。

今、企業の中では、非常に多くの種類の AI が世の中に出てきているが故、何をどう使うか、また企業の中でどの部署でどの AI が使われているか不明瞭な状況も発生しつつあります。それではリスクが高くなり、安心して事業に使えませんので、全体をどう管理していくのか、AI のガバナンスが重要になります。

そして、ネット上の利用可能なデータはほぼ基盤モデルに組み込まれていますが、企業データについては各社非公開のままで、世界中の企業の中に存在する全データの1%も組み込まれていません。ですから、このデータを業務特化型にどう活用するかが、企業の成長の分かれ目になります。

AI の最新活用事例を申し上げますと、IT 人材の不足に関して、例えばシステム会社では、生成 AI によるコード生成で、90%の生産性向上というテスト結果が出たところもあります。

さらに、経産省が指摘した「2025年の崖」、同年に大変な IT 人材不足に陥る予測から提起された課題のいくつか、例えば古くから存在する

プログラム言語の対応をすることができなくなるといったようなものは、生成 AI の登場によって、解決しつつある状態となってきています。

ですから、少し前に認識されている課題だけをベースに物事を判断するのではなく、テクノロジーが進化した現状やこの先の進化を予測して経営判断しないと、間違っただけのプロジェクトをスタートさせることになります。

他の事例として、スーパーマーケットでは、過去のデータ、気象情報も含めた AI による需要予測で、フードロスと発注業務時間を削減しました。飲料メーカーでは、ファジーな要望から材料を配合し、より適切な商品を製造、商品開発サイクルの短期化を可能にしました。京都大学と共同開発した難病情報照会の AI では、平均 7 年と言われる稀少・難治性疾患名の確認について、世界中から情報を集め、早期に可能性のあるリストを抽出して病名を把握することにより、治療の早期開始を支援しております。

2. IBM 自身の変革への取組

冒頭申し上げた世界情勢や日本経済の状況下、当社では、大きく 7 つの領域、事業変革やテクノロジー、人材、企業文化、地政学リスク、環境、そしてコーポレートガバナンスについて、経営会議で議論しております。

この中で申しますと、事業変革はポートフォリオで、利益率、成長率等を共有して、事業の継続、将来性を考えながら議論し、判断していきます。テクノロジーは、自分たちのやり方でどれだけ提供できているかを常に自問自答しております。新しく製品やソリューションができれば、日本中の需要量について AI で分析します。結構ヒット率も高く、自動の提案書も間もなくできそうです。

企業文化ですが、IBM は外資なので厳しいと思われがちですが、実はそんなことはないと思っています。例えばビジネスの進捗会議で担

当者に「何故その目標を達成できないのか」といった問いはしていません。「どうすればマネージメントが支援できるか」を中心に議論する形に変えています。また、売り上げも大事ですが、それ以上に自社の製品やサービスがお客様にお役に立っているのか。それをひたすら考えることに注力するようにしています。お客様が価値を感じなければビジネス結果にもつながらないという考えのもと、このようなスタイルに変えていっています。

正直、ビジネス会議において営業に数字のコミットメントを求めることをしなくなればビジネス結果が落ちるのではと、私たち経営陣も不安な状態で動向を見守っていましたが、次期から予測値と実績値がピタッと合うようになりました。それによって、何故、予測通りに数字が上がらなかったんだということの原因を究明する会議もなくなりました。その時間をお客様と過ごすことができ、急にビジネスがよい形で伸びるようになりましたので、こうした企業文化は、やり方がとても大切だと実感しました。

そして、人材です。教育については、一方的な集合研修はあまりしておりません。社員の経歴や保持しているスキルは様々ですので、個々人に合わせた形で、約 8 万件のオンラインのコンテンツから学習を選択できるように変えております。また、全社的に定期的に学びの機会を提供、集中セッションを行う「学びウィーク」を行っております。一方で、社会全体でのデジタ



KOUENROKU

ル人材の育成を図り、「IBM SkillsBuild」というスキル構築のための研修サイトを、無償で皆様にお使いいただける形で公開もしております。

そして、IT システムの開発センター「IBM 地域 DX センター」を開設しております。今は全国で計8拠点ですが、さらに増やしていく予定です。要するに、IT システムですから、環境さえあれば日本中どこにいても開発が可能です。地方にいる方がそこで就職してこのプラットフォームの中に入れば、最終的には世界中のプロジェクトが開発できる仕組みで、地域での共創促進と人材育成を図っております。

また、社内には、例えば育児や介護、働き方など Slack (スラック) というツール上でのコミュニティが100ほどあり、社員同士が組織の枠を超えて自発的に意見を出し合い、自分たちの働く環境をつくり上げています。こうして社員が輝ける企業文化を醸成しています。

こうした中で、今、当社として皆様と協力し、価値共創に注力する領域は、社会インフラである IT システムの安定稼働や AI などのテクノロジーを活用した DX、CO₂削減などのサステイナビリティソリューション、そして新しいコンピューターや消費電力削減に資する半導体といった先端テクノロジーの研究開発と社会実装、加えて IT/AI 人材の育成です。

3. 未来のコンピューティング

皆さんのスマホや会社でご使用のコンピューターは、数学ベース、0と1のビットの考え方で動く従来型です。しかし、今、新しい2つの形も開発されています。1つは量子物理学をベースとする量子コンピューターで、例えば従来型なら数十年かかる処理を数分で行える可能性があります。もう一つは生物学ベース、人間の脳を模したニューロモフィックコンピューターです。人間の脳はコンピューターの1万分の1の消費電力で処理ができると言われており、省

電力が見込めます。

従来型と量子の違いを例えますと、富山から東京に行く移動手段です。今は新幹線ですが、リニアモーターカーが登場すれば早く到着できます。つまり、従来型の延長で新しく、より早く処理できるもの、それが例えば富士通の「富岳」のようなスーパーコンピューターです。しかし、新幹線もリニアモーターカーも地上での移動です。それに対して空を飛ぶ、という新たな移動手段としてつくられたのが量子コンピューターです。ゆくゆくは宇宙にも行ける可能性ができたわけですから、未知のものを発見できるかもしれません。そこに、新しい産業が生まれます。従来のコンピューターと量子は地上の移動と空の移動と言う具合に、できることがそもそも異なるということを理解いただければと思います。

3つのコンピューターにはそれぞれ得意、不得意がありますが、最終的にはつながります。実際、神戸の理研に量子コンピューターが導入され、「富岳」と連携させる取り組みを行っています。こうした組合せが、これからは必要になるということです。決して従来のコンピューターが要らなくなるわけではありません。

今後のコンピューターに必要で、今研究開発を進めているのが先端半導体です。「2ナノ半導体」は、当社と技術協業する Rapidus (ラピダス) 社の北海道千歳市の工場で4月から試作品の製造に入ります。なぜ今さら日本で半導体を製造するのと言われる方もいますが、高処理能力を持つ「2ナノ」製品は世界的に量産が実現していないので、このタイミングを逃さずに新世代半導体の世界に入るため、政府も後押ししています。

「より良い社会と地域共生を皆様とともに」。こうした新しいテクノロジーが決して難しくも遠くもなく、手をつけられる環境をどんどんご提供できたらと思います。



自律的な組織を作る

— 第2回同友会経営道場 —

企業経営委員会（高木悦郎委員長）は3月13日（木）、第2回同友会経営道場を開催し、32名の委員が出席した。今回は、発表者の廣田大輔氏が取締役社長を務める十全化学㈱の新社屋を会場とした。

廣田社長は、自身の経歴を紹介し、これまでの経験が現在の経営哲学の礎となっていると述べた。



廣田取締役社長

冒頭では、影響を受けた書物について触れ、大学生時代には「深夜特急」に影響を受け、長期休暇の時にはバックパッカーとして海外を放浪したことで、海外で仕事をする憧れを抱いたこと、就職してからは経済小説を通じて理想の経営者像を明確にしていったと語った。また、経営者を志して会社員時代にビジネススクールに通い、厳しい環境の中で、論理的思考や多面的な視点を学び、当時の指導教官の「人生におけるROIがプラスになるように」という言葉は今でも心に残っていると述べた。

次に楽天時代に学んだこととして、現在の廣田氏の哲学の根幹である「やり切る力（Get Things Done）」について説明。目標達成のための徹底力、0.1%の改善の積み重ね、逆引きの発想、そして物事をポジティブに捉えることの重要性も、楽天の成功のコンセプトが原点にあると挙げた。

続いて自社の取組みを説明し、企業の成長と変化への対応を語った。具体的な例として、企業理念とミッション、行動指針の設定、従業員の働きがいを重視する姿勢、そしてCDMOへの転換などを挙げた。特に、従業員との関係性の質を高める取組みとして、毎週6名との1on1ミーティングを必ず実施していることや、エンゲージメントサーベイを紹介し、これらを通じて従業員の成長と企業の発展を目指していると述べた。

また、2年前に完成した新社屋の設計には従

業員の意見を反映させ、「深化」「進化」「新化」の3つの「シンカ」をキーワードに、働きやすさとコミュニケーションを重視した環境作りを行ったことや、学習機会の提供など、従業員の成長を支援する取り組みについても紹介した。

最後にメッセージとして「目の前のやるべきことの積み重ねがなりたい自分やそうありたい環境を創り出す！ 楽しみながら前進していきましょう！」と語り、発表を締めくくった。

発表後には社内見学と、グループディスカッションを実施。各グループによる活発な意見交換や質疑がなされ、盛況なうちに経営道場は閉会した。



グループディスカッション



企業経営委員会では、2年間の活動をまとめた報告書を作成し、ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

<https://www.doyukai.org/committee/>





半年間の想いを届ける ～ スケッチオーデション Day 7-9 ～

●スケッチオーデションとは・・・

富山経済同友会（アントレプレナーシップ小委員会）、とやま未来共創チーム、富山ニュービジネス協議会、富山大学が共催する地域人材の育成・発掘を主目的としたビジネスプランコンテストであり、昨年10月からグループワークや講義を通して、ビジネスプランの考え方のインプットとアイデアのブラッシュアップがなさ

れてきた。

プログラムの総合プロデューサーを富田欣和氏（神戸大学 客員教授）が務めるほか、毎回ゲスト講師による特別講演も開催されてきた。

Day 7（予備予選大会）、Day 8（予選大会）、Day 9（決勝大会）が開催され、優勝、準優勝、特別賞、メンター賞に加え、MIP 賞が決定した。

● Day 7（予選大会）〔3月8日(土)〕

半年間のプログラムの集大成である大会に向け、25組29名の挑戦者による予備予選がスケッチラボにて開催され、5分間のプレゼンに挑戦

者達が想いを込め発表した。

半年間共に切磋琢磨してきたメンター17名のうち12名が審査員を務め、審査基準に基づき予選大会に進出する挑戦者を選出した。

● Day 8（予選大会）〔3月15日(土)〕

予選大会は富山大学黒田講堂で開催され、予備予選を突破した16組がプレゼンを行った。予選大会の審査員は、富山経済同友会（アントレプレナーシップ小委員会）のほか、富山ニュービジネス協議会、とやま未来共創チーム、富山大学の主催団体より1名ずつ、メンターから4名の計8名が行い、冒頭に村上委員長が開会挨拶で挑戦者一同にエールを送った。



村上委員長

予選大会は7分間のプレゼンと3分間の質疑応答で進められ、出場者は半年間の学びを活かしたビジネスプランや熱い想いを発表し、プレゼン後には審査員より質疑やフィードバックがなされた。

出場者のプラン内容はいずれも甲乙つけがたく、審査は難航したが、決勝大会に進出する8組を決定した。



決勝進出者

終わりに、審査員も務めた富山大学 野田理事よりプレゼンの講評と明日の決勝大会に進出するファイナリストへ激励の言葉が贈られ予選プレゼンテーションを締めくくった。

● Day 9 (決勝大会)〔3月16日(日)〕

決勝プレゼンテーションはホテルグランテラス富山で開催された。前日の予選大会を勝ち上がった8組がプレゼンを行い、当会の会員のほか、富山ニュービジネス協議会、とやま未来共創チーム、富山大学からも多くの関係者が駆け付けた。決勝大会も予選と同じく7分間のプレゼンと3分間の質疑応答の時間が設けられた。審査員にはベンチャーキャピタルやスタートアップ企業経営者の4名に加え、Day 1の特別講師を務めた南部誠一郎氏がこの取組みに共感し、急遽審査員に加わることとなった。

初めに、麦野代表幹事から開会挨拶があり「5回目となる今回は過去最多の86名と多くの皆様に参加いただき、少しずつ充実してきている。今回も半年間の講義やワークショップを通じ多くの学びと気づきや出会いがあったと思う。本日の大会で奇抜なアイデアが出てくることを期待しているので、頑張ってください」と一同を激励した。また、来賓の藤井富山市長から「このスケッチオーデションを通じて、意欲的な人材が失敗を恐れるのではなく、果敢にチャレンジし、周囲も応援する文化が醸成されていくことを期待している」と挨拶があった。

8組のプレゼンでは、建設業の管理システム、身の回りにカラフルを増やしたいなど創意工夫に富んだプランが提案された。審査員からの質疑やフィードバックも活発になされ、出場者からは真摯に受け答えする様子が伺えた。

厳正な審査の結果、優勝は「新卒プログラマー革命で日本を救う!」を提案した油谷駿杜さん(高校2年生)、準優勝は「『ある』を感じ輝いて生きる!【Connect&Shine Base】設立」を提案した石黒葉月さん(社会人)、特別賞は「身の回りにカラフルを増やしたい」を提案した土



麦野代表幹事



藤井市長



井真如さん(高校2年生)に決定した。また、挑戦者から選出された最も貢献度合いの高かったメンターとして白崎裕大氏にメンター賞、このプログラムでの取組みや成長が評価され、大学2年生の久田蒼太さんと中学2年生の山下蔵之助さんにMIP賞が贈られた。

また、総合プロデューサーの富田氏が「今日の成果はファイナリストだけでなく参加した全員で作り上げたもの。すべての発表に価値があり、それぞれの挑戦が一つの舞台に集まり、互いの成長を喜び、支え合える場となったことが、この大会の理想形だ」と総評を述べた。



富田教授

最後に、齋藤富山大学学長から「これからは、多様な個性が集まり、学び合い、助け合って方向性を決めていく時代であり、このオーデションで体験したことを求められる。本日発表された内容



齋藤学長

は、小さいながらも確かな一歩。これからも大切にしながら形にして欲しい」と閉会挨拶があり決勝プレゼンテーションを締めくくった。

終了後は、主催団体の経営者と参加者、メンター、審査員、先生方と活発に意見を交換、交流する様子が伺え、スケッチオーデションのコンセプトである「仲間と学びあい支えあう」が実現した日となった。

新旧委員長の引継ぎとオリエンテーション

— 第8回委員長連絡会議 —

3月21日(金)、第8回委員長連絡会議(大橋聡司企画委員長)が事務局会議室において開かれ、企画委員長と委員長及び新委員長予定者の16名が参加した。

次年度からの委員会運営が円滑に進むよう、委員会運営のノウハウを早い段階で伝える初めての試みであり、まず、今年度で活動を終える各委員長から2年間の委員会活動の所感や新しい委員長に伝えたいこと等が一言ずつ話された。

次に、新たに委員長に就く皆さんの自己紹介と抱負等が語られた。

そして、大橋企画委員長から、2025年度以降の新たな委員会編成と委員会活動の進め方についてオリエンテーションが行われた。

その後の意見交換で



大橋委員長

は、「正副委員長会議はWEBで開催してもよい」、「委員会の最終成果物をどうするかはどの時点までに考えるべきか」、「いつ頃までに活動方針をまとめるべきか」等、委員会活動の進め方について、様々な質疑がなされ、意見交換が活発に行われた。

その後、場所をトラットリアポルコに移し和やかに懇親会が開かれた。



SDGs

4 質の高い教育をみんなに



17 パートナリシップで目標を達成しよう



富山県教育委員会との意見交換

— 第9回教育問題委員会 —

3月28日(金)、第9回教育問題委員会(土屋誠委員長)を富山県民会館にて開催。委員ら22名と富山県教育委員会から廣島伸一教育長はじめ6名にご参加いただき、「県立高校再編」をテーマに意見交換を実施した。

はじめに、土屋委員長が同日、委員会に先立ち廣島教育長に提言書を手交したことに触れ、2年間の活動について委員へ感謝の意を表し挨拶を述べた。続いて、廣島教育長より「『新時

代とやまハイスクール構想』について」と題して令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿や、その実現に向けた検討方針等について講話いただいた。

その後の意見交換では、人口減少などの社会変化に伴う高校再編に一定の理解を示しながら、委員からは校則や教育内容の独自性、スケジュール感等について質疑がなされ、県立高校における教育のあり方について考える大変有意義な機会となった。



土屋委員長

廣島教育長





アスリートと企業の相思相愛のマッチングに向けて ～ 第7回アスリート支援小委員会 ～

3月6日(木)、アスリート支援小委員会（遠藤忠洋委員長）をインテックビル会議室で開催し、委員13名が出席した。開会のあいさつで遠藤委員長は「毎回、参加者に忌憚のない意見をしっかりと聞くことができ充実した委員会だったと思う。アスリートのセカンドキャリア、デュアルキャリアについて、企業と選手が相思相愛のマッチングができる仕組みを目指し、アスリートに話を聞く機会やアスリート採用に関する会員アンケートの実施に取り組んできた。同友会として、直接人材紹介業務に取り組むことはできないが、アスリート支援と企業の人材不足解消に向け、ドリームキャリア富山の取組みについて理解を深めたい」と挨拶。これまでの2年間の活動について振り返った。



遠藤委員長



松井 克仁 氏



続いて、ドリームキャリア富山の松井克仁専務取締役から富山県や富山県スポーツ協会の協力を得て産学官一体となった『富山版アスリート人材キャリアサポートモデル』の構築を目指す事業内容について説明を受けた。

参加者は、ドリームキャリア富山の事業内容に共感し、興味深く聞いた。委員会の最後には、参加者一人一人がアスリート支援について意見や感想を述べ、アスリートに選ばれる企業になるためにはどうすればよいか、企業としても努力が必要だとの意見が出され、今後説明会に参加したいとの声が多く上がった。



アスリート人材を希望される会員企業の皆様へ

アスリート人材の会員企業へのご紹介は「株式会社ドリームキャリア富山」に委ねることになりました。(株)ドリームキャリア富山は、仕事とスポーツの両立を希望するアスリートのセカンドキャリア・デュアルキャリア支援に加え、新卒の学生アスリートのUターン、Iターンについても力を入れて取り組んでいます。定期的に企業との説明会も実施されています。ご興味がある方は、(株)ドリームキャリア富山にお問い合わせください。

(株)ドリームキャリア富山の概要は、以下のURLからご覧ください。

<https://dream-career.co.jp/>



なお、(株)ドリームキャリア富山の今年度開催の説明会については、
今後、開催日が決定したら事務局から案内する予定です。

本物に触れ、感動することが大切

— 第11回文化スポーツ委員会 —

3月22日(土)、文化スポーツ委員会(武内孝憲委員長)を、オーバード・ホール大ホール・日本料理俵屋において開催し、委員19名が出席した。ミュージカル「みんなの歌謡ショー」を鑑賞し、講演終了後、歌手・俳優の剣幸氏と演出家・振付師の本間憲一氏をお招きし、アフタートークを行った。

「みんなの歌謡ショー」は、オーバード・ホールの年に1度の感謝祭「楽市楽座」の中のプログラムで富山県出身の歌手・俳優の剣幸氏、テノールオペラ歌手の澤武紀行氏、民謡歌手の寺崎美幸氏が出演し、公募で選ばれた市民県民が参加する地域とのコラボレーションで創り上げるエンターテインメント。

アフタートークでは、「劇場を拠点とする地域とアートのコミュニケーション」をテーマに



アフタートーク

お二人にお話を伺った。剣氏は、舞台生活50年について「沢山の作品に出会え、ずっと見続けてくださった方々に感謝する。」と振り返り、ミュージカルの演出を手掛けた本間氏は、現場の様子等を紹介し、今後も作り続けたいと話した。出席者から「皆さんの笑顔が素晴らしかった」「本物に触れて感動することが大切だと感じた」「オーバード・ホールという素晴らしい施設があることを誇りに思う」等の意見が出され、最終委員会を盛会に終えた。



剣幸氏と本間憲一氏(前列中央)

文化スポーツ委員会では、2年間の活動をまとめた報告書を作成し、ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

今年度活動方針・活動計画の検討

— 第1回交流委員会 —

4月28日(月)、事務局会議室において第1回交流委員会(島田好美委員長)を開催し、オンライン含め委員12名が参加した。委員会では、今年度の活動方針・活動計画等について意見交換を行った。

冒頭、島田委員長と伊東担当役員が挨拶し、各委員も自己紹介した。

続いて、今年度の活動方針・活動計画について、「会員エンゲージメントの向上」にどのように取り組むか議論され、会員向けアンケートや新入会員へのフォロー等の意見が出されたが、今後引き続き検討していくこととなった。



島田委員長

また、第43回海外経済視察の参加募集を行うにあたり、実施要領について協議を行った。行程、参加費用、定員等の説明に対し、視察先をもう少し具体的に記載することや、参加しやすいように費用概算の書き方を工夫するようなどの意見が出され、文面を一部修正のうえ会員あてに案内することについて了承された。



エリアコンセプトを共有 — 第3回富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会 —



3月24日(月)、富山県民会館において第3回富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会を開催。座長の牧田代表幹事を始め、品川祐一郎 富山商工会議所副会頭、齋藤滋 富山大学学長、難波悠 東洋大学大学院教授、新田八朗富山県知事、藤井裕久富山市長ら、懇話会メンバー6名が出席した。

最初に、県が「県庁周辺エリアにかかるエリアコンセプトの検討」について報告し、西村幸夫 東京大学名誉教授・國學院大學観光まちづくり学部学部長（当日欠席）からあらかじめ寄せられた意見を反映したエリアのコンセプトブック(案)を提示。次に、

当会地域創生委員会の池田委員長が、提言「つながる富山、共創の未来～エリアリノベーションで描く新たな100年～」を紹介した。その後の意見交換では、両者の目指すところが重なる点に触れつつ、コンセプトブック(案)について賛同が示されるとともに、若者がまちなかに集う理由付けが必要との共通認識から、産学官それぞれの立場からできること、なすべきこと等について忌憚のない意見が挙げられた。

本懇話会は、同コンセプトブックを成果として一定の役割を果たしたものとし、本回をもって終了。牧田座長は、最後に、「本懇話会で共有されたエリアコンセプトを県・富山市がしっかりと受け継ぎ、今後、同じイメージを共有しながら、このエリアのデザインに取り組んでいくことを見守りたい」と会を締めくくった。

市議会・町村議会議長会からの要請 — 地方議会議員の立候補環境の整備について —

3月17日(月)に、市町村議会議員の立候補環境の整備に係る要請活動があり、横野昭市議会議長会会長（富山市議会議長）と本田均町村議会議長（入善町議会議長）から麦野英順代表幹事と牧田和樹代表幹事に要請書が手交された。

女性や若者等の多様な人材が地方議会に参画し住民に開かれた地方議会の実現に向けて、企業に対して、立候補に伴う休暇制度を設けることや、議員との副業・兼業を可能とすること等について協力を求める内容であり、当会会員への周知について要請

がなされた。



※要請書の内容は以下の URL からご覧ください
<https://www.doyukai.org/2707/>



「富山には、何もないちゃ」って本当ですか？

須田 直 樹

(全日本空輸株式会社 富山支店長)

2021年4月に初めて富山県に赴任してから5年目を迎え、すっかりこの土地に馴染み、楽しく単身赴任生活を送っています。仕事柄、全国転勤する可能性があり、自分自身もこれで6回目の転勤となりましたが、5年目を迎えたこの場所は、最も長く住んでいる場所の一つになりました。

富山に来るきっかけとなったのは、富山県庁の観光振興室に出向することになったからでした。転勤したての年はコロナ禍の真ただ中で、県を跨いで移動も控えなければならないという異常時でした。その前年にGOTOトラベルと言う旅行需要を促進させる事業がありましたが、その結果（かどうか分かりませんが）コロナ患者が増えGOTOトラベルも中止となっしまい、観光業界も相当厳しい状況に追い込まれていました。そんな中、観光振興と言う職場に来たもののどうやって振興させるかと言った時に、県民が長距離移動をしなくてもできる県内観光を促進する事業である「県民割（地域観光事業支援）」を運営する担当となりました。この事業の趣旨は、少しでも観光関連事業に利益を生み、かつ旅行中、幅広い産業に裨益することで経済を回そうと言うものでした。

またもう一つのテーマに『地域の観光資源の魅力の再発見』と言うものがありました。他県に行けないこんな時だからこそ、県民が地元の良い所を知り、体験し、そして発信すると言うことです。

「富山には、何もないちゃ」と言う言葉を良く聞きます。新聞やTVにも出ていました。経済同友会では平成16年の「この指とまれ委員会」が【「何もないちゃ」はもうやめて、遠慮なく自慢しよう】と提言されていました。

「観光」と言う点において富山県の持ってい

る素材は他地域に比べ非常に素晴らしいものがあります。魅力的な観光地の要素とは、①美しい景色 ②歴史や文化 ③ご当地グルメ などがあげられます。

私が美しい絶景でオンリーワンのものと感じているのが「立山連峰」です。晴れた日に当たり前のようにそこにある立山連峰なので5年も見ていれば見慣れるはずなのに、はっきりと見える日は未だに一瞬立ち止まって見入ってしまいます。特に雨晴海岸越しに見える立山連峰を見ることのできる贅沢は何物にも代えがたいものです。その立山にはアルペンルートや黒部峡谷などの日本の観光を代表する絶景メガコンテンツが有ります。歴史や文化についても、世界文化遺産の五箇山を始め、黒部ダムの建設、国宝の寺院の数々が有りますし、ご当地グルメについては、日本が誇る和食に関する素材（米・水・日本酒・魚介類）がこんなにも充実しています。魅力的な観光地の要素が全てそろっているのがここ富山です。

これで本当に「富山には、何もないちゃ」なのでしょう？これだけ発信するツールに溢れている現代において「何もないちゃ」と謙遜し美德と思わず、地方各地が頑張っている今だからこそ、地元の魅力を認識し、県民一人ひとりが発信していくことが必要なのだと思います。富山県は観光公式サイトへのアクセス数全国ランキング5位以内に入るほど力を入れていますし、NYタイムズは「2025年に行くべき52カ所」と発信してくれています。

自分も県民歴5年目を迎え、シビックプライドもしっかり醸成されました。ますます富山に居ることを自慢していきたいと思っています。

（ 次号は東京海上日動火災保険(株)
富山支店長の下村 貴之 様です。 ）

活動報告

3月1日～4月30日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
3月5日(水) 16:00～20:10 オークスカナルパーク ホテル富山	3月幹事会・会員定例会（人財活躍委員会主管） 講師：日本アイ・ビー・エム(株) 代表取締役社長執行役員 山口 明夫 氏 演題：「テクノロジーの進化と企業経営」	約120名
4月9日(水) 16:00～17:00 オークスカナルパーク ホテル富山	4月幹事会	52名
4月24日(木) 16:30～20:00 ANA クラウンプラザ ホテル富山	2025年度定時総会・懇親会	約190名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
3月6日(木) 17:00～20:00 インテックビル	第7回アスリート 支援小委員会	・委員会活動報告 ・アスリートの人財マッチング組織について	13名
3月13日(木) 16:00～20:00 十全化学(株)	企業経営委員会	第2回同友会経営道場	32名
3月15日(土) 13:00～18:00 富山大学黒田講堂	アントレプレナー シップ小委員会	スケッチオーデション（予選大会）	11名
3月16日(日) 14:00～19:30 ホテルグランテラス 富山	アントレプレナー シップ小委員会	スケッチオーデション（決勝大会）	14名
3月21日(金) 15:30～19:00 事務局会議室	第8回委員長連絡会議	・次年度以降の委員会編成及びオリエンテーション(委員会活動の進め方)	16名
3月22日(土) 16:00～20:00 オーバード・ホール 大ホール	第11回文化スポーツ 委員会	・ミュージカル 「みんなの歌謡ショー」鑑賞会 ・アフタートーク テーマ： 「劇場を拠点とする地域とアートの コミュニケーション」 ゲスト：剣 幸 氏、本間 憲一 氏	19名
3月28日(金) 16:00～19:00 富山県民会館	第9回教育問題委員会	富山県教育委員会との意見交換 テーマ：県立高校再編	22名
4月3日(木) 17:30～20:30 和食ティファニー	文化芸術委員会 キックオフミーティング	・委員会活動方針及び活動計画について	11名
4月21日(月) 17:00～20:00 事務局会議室	デジタル推進委員会 第1回正副委員長会議	・委員会活動方針及び活動計画について	7名
4月28日(月) 14:00～15:30 事務局会議室	第1回交流委員会	・今年度の活動計画について ・第43回海外経済視察について 等	12名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
4月28日(月) 17:00～20:00 饗「鉄人」	企業経営委員会 第1回正副委員長会議	・委員会活動方針及び活動計画について	9名
4月30日(水) 17:00～19:45 事務局会議室	観光戦略委員会 第1回正副委員長会議	・委員会活動方針及び活動計画について	9名

○その他派遣

開催日	内 容	場 所	出席者
4月25日(金)	市町村新任職員研修	富山県市町村会館	谷川 正人 氏

○同友会諸会合

開催日	内 容	場 所	出席者
4月17日(木) ～18日(金)	第37回全国経済同友会セミナー (広島経済同友会主幹)	広島県	22名

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
3月3日(月)	カターレ富山「キックオフパーティ2025」	オークスカナル パークホテル富山	牧田代表幹事
3月24日(月)	第3回富山県庁周辺エリアマネジメント 懇話会	富山県民会館	牧田代表幹事
3月25日(火)	富山県人会世界大会第2回実行委員会	富山国際会議場	麦野代表幹事
4月24日(木)	富山県米国関税情報連携会議	富山県庁	牧田代表幹事

慶事のお知らせ

おめでとうございます

令和7年春の叙勲・褒章において、当会会員が晴れの栄誉を受けられました。
心からお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

黄綬褒章



志鷹 新樹 氏
丸新志鷹建設(株)
取締役社長

瑞宝双光章



濱田 政利 氏
(株)延楽
取締役社長

会員の入退会

(4月幹事会)

1. 最近思うこと

(社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど)

2. 生活信条(座右の銘等)

3. 趣味

入会



うえだ よしお
上田良雄
(株)太陽スポーツ
代表取締役会長
(紹介者：石坂兼人氏)

1. 元気に健康であり続けることが如何に幸せかを実感しております。大好きな富山をスポーツでサポートしたいと思っています!!
2. 感謝と奉仕(当社の経営理念)
3. スポーツ実践 & 観戦
これからはツアーラン



こん どう みつ ひろ
近藤充博
近藤建設(株)
常務取締役
(紹介者：近藤裕世氏)

1. 世の中の変化に取り残されないよう様々なことに挑戦し続けていきたいと思っています。また、弊社スローガンの「人が育つ会社に！」を実行しながら社業に励んで参ります!
2. 現状維持は衰退の始まり
3. ゴルフ、読書、映画鑑賞



しむら ひとあき
志村仁朗
(株)サン計装
代表取締役
(紹介者：森弘吉氏)

1. 会社の皆と更なる成長を目指し、新たな環境をと思いました。これからは個人が尊重され、自身の人生を大切に生きる時代であり当社もそこを叶えていける企業を目指します。
2. 「おかげは和賀ここにあり」
3. 読書、一人旅、スキー



たかはし ゆき
高橋由紀
(一財)ボディセンス・
インスティテュート
代表理事
(紹介者：中沖雄氏)

1. AIやDXの普及、サービス提供のオンライン化に伴い、対面でのコミュニケーションの機会が減ったが、そんな時代だからこそ「ふれあい」の大切さを伝えていきたいと思う
2. 「Pay Forward」恩送り 自分が受けた善意や思いやりを他の誰かに返すこと
3. ホームパーティー、キャンプ、ヨガ、読書



にっ た ようたろう
新 田 洋太朗
日本海ガス絆ホール
ディングス(株)
代表取締役社長
(紹介者：麦野英順氏)

1. エネルギーの仕事を通して地域産業の発展とカーボンニュートラルに貢献します。ウェルビーイングな富山を実現するには経済界の活性化と一致団結が欠かせないと考えます。
2. すべてが発展と成長の機会
3. ベースギター



はま たに とし じ
濱 谷 利 二
(株)提案室
執行役員相談役
(紹介者：今井壽子氏
高田一徳氏)

1. 富山の活性化、若者の富山の定着の必要性和観光滞在の短い事です。いい環境なのに知られてないことが残念です。その手助けが出来ればいいです。
2. 頼まれば助けたい気持ちです。特に新しいことは吸収して実行したいです。
3. 家庭菜園



はやし もり と
林 守 人
(有)雷鳥荘
代表取締役
(紹介者：黒田祥撰氏)

1. 不思議の国のアリスのトランプ王国では地面が動き走り続けないと生存不能です。米トランプ王国は多様に世界を動かします。ならば最適解は多様な方向に走り続ける！です。
2. 「究極のものが欲しければ究極の対価を払え」という映画の中の言葉が好きです。
3. 生物観察、人と話す事、スポーツ、旅行



もも き けい いち
桃 木 敬 一
近畿日本ツーリスト(株)
富山支店長
(紹介者：多賀善治氏)

1. 地域の魅力を発見し、多くの人に伝えることで、観光を「まちづくり」の力に。地域の元気につながるお手伝いをしたいと思います。
2. 努力に勝る天才なし
3. スポーツ観戦、ジム

交 代



おお にし ひで のり
大 西 秀 典
(株)かんぽ生命保険
富山支店長
(前：山本拓治氏)

1. 地域の企業さまから、愛され、信頼され、お客さまに安心をお届けし続ける活動の定着・促進を更に目指してまいります。
2. 「一生懸命」
3. 食べ歩き



おか ざき とも ひろ
岡 崎 智 洋
第一生命保険(株)
富山支社長
(前：野田強氏)

1. 弊社富山支社で働く社員が明るく楽しくプライドを持って働ける支社にしたい
2. 朝は希望と共に目覚め、昼は懸命に働き、夜は感謝と共に眠る
3. ゴルフ、歴史、切手収集、日本刀



おか もと けん じ
岡 本 憲 治
(株)スカイインテック
取締役常務執行役員
富山支社長
(前：高瀬幸忠氏)

1. DX社会が進む時代だからこそ、人と人とのつながり、縁を大事にしていきたい。
2. 我が喜びは周りの幸せであれ
3. ゴルフ、B級飯作り



お に し たかし
尾 西 崇
(株)日建設計
北陸支所長
(前：五十田昇平氏)

1. 建設業界にて35年働いています。社業を通して震災復興支援や地域発展などに貢献できることに尽力したいと考えます。
2. 継続は力なり
3. 居酒屋めぐり、ゴルフ



お の まさ ひと
小 野 匡 史
住友生命保険(相)
富山支社長
(前：関戸正浩氏)

1. 住友生命 vitality 発売以降、日本の皆様に健康にし、健康寿命の延伸や社会保障費の削減に繋がる職務としてプライドをもち取り組んでいる。
2. 為せば成る為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり
3. 歩くこと、美味しいお酒と料理を楽しむ



た な か けい すけ
田 中 啓 介
(株)三菱 UFJ 銀行
富山営業部長
(前：吉川大介氏)

1. 金融機関の立場から、富山を盛り上げたいと思っております。
2. 明るければ強し！
3. ゴルフ、少年野球、アメフト観戦



た ま る さとし
田 丸 哲
(株)みずほ銀行
富山支店長
(前：小山輝行氏)

1. 富山県及び北陸地方の経済発展や地方創生のため、微力ではありますが、お力になれば幸いです。よろしく願い申し上げます。
2. 笑う門には福来る
3. ジョギング、登山（ハイキング程度）



てら わき ひで き
寺 脇 秀 樹
(株)三井住友銀行
富山法人営業部長
(前：倉田洋紀氏)

1. 着眼大局、着手小局、いずれの大切さも実感しております。
2. 縁と恩と運
3. 野球（をしていました）



なか た こうたろう
中 田 康太郎
三井住友海上火災保険(株)
富山支店長
(前：井深亜希氏)

1. 損害保険会社として、富山の地域経済や皆さまにどのように役立つか、安心安全をお届けするか、さらには当社のブランドイメージをどう確立するかについて思案しています。
2. 常に頭は低く、目は高く、強い好奇心と関心をもって行動することに留意しております。
3. ロードバイク、釣り。(登山を始めたい)



なが の まこと
永 野 真
明治安田生命保険(相)
富山支社長
(前：碓井順氏)

1. 富山県における地域の元気とみなさまの健康増進に大きく貢献していきたいと考えております。
2. 「志は高かるべし」
何事も諦めることなく本質的に挑戦する
3. 食べ歩き、ウォーキング等



にし むら のぞむ
西 村 望
SMBC 日興証券(株)
富山支店長
(前：門之園勝久氏)

1. 地政学リスクの高まりや経済の不確実性が続く中、証券会社としての使命と責任を強く感じております。金融市場を通じて、お客様と地域に貢献してまいります。
2. 日日は好日 今日の1日を大切にし前向きに行動すること
3. 家族旅行



ひがし かつ ひこ
東 勝 彦
三機工業(株)
執行役員 北陸支店長
(前：五十嵐一雄氏)

1. 創立100周年を2025年に迎え、これからの100年に向けて新たなチャレンジを考えていく。
2. 敬天愛人
3. ゴルフ、散策



ほり ぐち ごお た
堀 口 剛 太
丸紅(株)
北陸支店長
(前：上垣雅裕氏)

1. 株価・金利・為替はじめ、先が見えない今だからこそ、軸足を確かに置き、変化を捉えて新たなビジネスに挑戦したい。
2. 風林火山陰雷
3. 野球・スポーツ全般、地酒



まつ い ひろ おき
松 井 洋 興
積水ハウス(株)
北陸支店 富山統括店長
(前：久保貴義氏)

1. 少子高齢化やコストアップ等住宅産業は非常に厳しい時代に直面しています。海外事業による売上高の増加は有りますが、足元をしっかりと見ていくことが大事だと考えています。
2. 努力は実力を生み、実力は自信を生む。
自信は幸運を呼び、幸運は勝利を掴む。
3. 読書、スノーボード



みや い あつし
宮 井 淳
損害保険ジャパン(株)
富山支店長
(前：流石稔氏)

1. 自然災害の激甚化・頻発化、インフレの悪影響など変化が激しい時代ですが、『安心・安全・健康』であふれる未来に向けて、富山県に貢献してまいりたいと考えております。
2. 早く行きたいなら手を放しなさい、でも遠くに行きたいなら手をつなぎなさい。
3. 日本酒、旅行、釣り、読書、ゴルフなど



ゆい まこと
由 井 真 人
みずほ信託銀行(株)
富山支店長
(前：小脇保志氏)

1. 多様性・自主性を重んじる組織を創り、自分自身もそれを率いるに相応しいリーダーで在り続けたい。
全ては発信力。言語化の難しさを日々痛感している。
2. 信じて託す
3. サッカー、スポーツ観戦



もと ず たか ゆき
本 圖 卓 之
三井住友ファイナンス&
リース(株)
富山営業部長
(前：木邨俊哉氏)

1. 経済情勢や社会情勢が日々変化する中で、自分自身も日々変化していくことを当たり前のこととして活動していきたいと考えています。
2. 為せば成る、為さねば成らぬ何事も
3. 音楽鑑賞

退 会

尾 城 敬 郎 (株)富山銀行 執行役員
川 本 元 充 北陸機材(株) 取締役相談役
京 田 憲 明 (株)富山市民プラザ 代表取締役
斉 藤 啓 作 砺波重機(株) 会長
林 克 吉 (株)インサイト 社長 CEO
森 雅 志 (株)富山市民プラザ 取締役会長
山 田 秀 夫 (株)山田写真製版所 代表取締役会長
遊 道 義 則 (株)ユニオンランチ 代表取締役

(令和7年4月9日現在 会員数435名)

今後の予定

開催日	対 象	行 事	場 所
6月13日(金)	正副代表幹事 常任幹事 交流委員会	第6回全国立山大使の会 (県外在住の当会会員 OB・OG 会)	はま作 (日本橋とやま館)
6月28日(土)	あけぼの会会員	第88回あけぼの会	呉羽カントリークラブ
7月24日(木)	幹事以上	7月幹事会	ホテルグランテラス 富山
7月24日(木)	全会員	7月会員定例会 講師：兵庫県立芸術文化観光専門職大学学長 劇作家・演出家 平田 オリザ 氏	ホテルグランテラス 富山
8月5日(火)	全会員	8月会員定例会 講師：日本銀行金沢支店 支店長 大川 真一郎 氏	ホテルグランテラス 富山
8月20日(水)	令和6年10月以降入会 新会員、正副代表幹事、 常任幹事、各委員会委 員長、交流委員会	新会員歓迎オリエンテーション	オークスカナルパーク ホテル富山
9月13日(土)	あけぼの会会員	第89回あけぼの会	呉羽カントリークラブ
9月26日(金)	正副代表幹事 交流委員会	第33回経済同友会中央日本地区会議	新潟県新潟市
10月6日(月)	幹事以上	10月幹事会	オークスカナルパーク ホテル富山
10月6日(月)	全会員	10月会員定例会 講師：e コモンズ 事務局長 金子 和裕 氏	オークスカナルパーク ホテル富山
10月22日(水) ～29日(水)	全会員	第43回海外経済視察	トルコ

事務局からのお知らせ

事務局体制に変更がございましたので、担当委員会とあわせてお知らせいたします。

事務局長	上田 順子 うえだ じゅんこ	(担当委員会：総務企画)
事務局次長	若島 啓子 わかしま けいこ	(北陸電力(株)) (担当委員会：デジタル推進、地域創生)
事務局次長	市井 涼祐 いちい りょうすけ	(株)北陸銀行 (担当委員会：企業経営、人財育成・活躍)
主席経済交流員	中山 貴和子 なかやま きわこ	(富山県) (担当委員会：交流、教育を考える)
主席経済交流員(新任)	小林 麻由美 こばやし まゆみ	(富山市) (担当委員会：観光戦略、文化芸術)
事務局員	中坪 美奈子 なかつぼ みなこ	

なお、植野雅美氏(前 主席経済交流員)は富山市企画管理部文化国際課へ帰任いたしました。
今後ともよろしくお願い申し上げます。

〔表紙写真〕

スケッチオーデション決勝大会

3月16日(日)伴走支援型ビジネスプランコンテスト「スケッチオーデション」決勝大会をホテルグランテラス富山で開催。

約半年間の学びを活かし、想いのこもったアイデアが発表され、会場は大いに盛り上がった。

発 行 所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電 話 (076) 444-0660

F A X (076) 444-0661

e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp

https://www.doyukai.org/



1982年秋 大学祭ハムレット劇



1983年3月25日 英文研究室卒業式後（前列左から4番目が筆者）



金沢城内の大学キャンパスにて

株式会社モーヴ 代表取締役

柳川三千代

私が金沢大学に入学した当時、お城の中に大学キャンパスがあるのは、世界でもドイツのハイデルベルクと金沢だけとのことでした。正門の石川門をくぐって行くと、城内にキャンパスが広がっており、石垣や階段や高低差のある中に各学部の校舎がたっていたことを思い出します。

現在大学は郊外に移転し、城跡は公園として整備され、当時の面影は残念ながら残っていません。

入学式当日は桜が満開で、石川門前の桜がそれは美しく、これから4年間を思うと感慨深かったです。大学の住所は丸の内1丁目、どの坂を下りるかで行きたい場所に行けるという城下町金沢の中心地で、兼六園、香林坊片町、近江町市場なども近く、大変良い環境でした。

大学では英文科に所属、イギリス文学を専攻し、主にシェークスピアを学んでいました。

大学4年の春ごろ、集大成として大学祭で英語劇をやるという話が研究室で持ち上がりました。何をやるか？ですが、有名なセリフもあるハムレットにしようと、深く考えもせず決まったのです。

最初は、セリフ全部英語で！と無謀にも張り切っていましたが、現実的な語学能力を考え、また観客が全部英語で理解できるかということもあり、実際はセリフの半分以上は日本語でそして有名な部分は英語でとなりました。私はハムレットの学友役で出場、また登場人物の衣裳調達や劇の場面に合わせた音楽の選択などの準備にも関わりました。

当日はいろいろあり、悲劇だか喜劇だかわからないうちに、なんとか成功裡に終わることができました。

大変でしたが、皆で作上げた素晴らしい経験で、今でも集まるとその話題になります。

以下はハムレットの有名なセリフです。

To be, or not to be: that is the question:
Whether 'tis nobler in the mind to suffer
The slings and arrows of outrageous fortune,
Or to take arms against a sea of troubles,
And by opposing end them?

あれから40年以上を経てまた読み直すと、400年以上たっても変わらない人間の真理に、より深く共感できるこの頃です。